

出雲市環境レポート

令和6年度(2024)のまとめ

出 雲 市

目 次

I はじめに	3
II 出雲市の環境の状況	
1 脱炭素社会構築.....	4
2 循環型社会構築.....	9
3 自然環境.....	9
4 生活・快適環境.....	11
5 環境保全活動.....	12
III 出雲市の環境への取組	
1 【脱炭素社会構築】ゼロカーボンシティ実現に向けチャレンジするまち	
1-1 地球温暖化対策.....	13
1-1-① 省エネルギーの推進.....	13
1-1-② 再生可能エネルギーの導入推進.....	15
1-1-③ 環境にやさしい交通手段の推進.....	16
1-1-④ 森林整備による二酸化炭素吸収源の確保.....	17
2 【循環型社会構築】「もったいない」の心で築く3Rのまち	
2-1 3Rの推進.....	18
2-1-① 3Rの推進.....	18
2-1-② 廃棄物の適正処理の推進.....	19
3 【自然環境】トキが飛び交う 自然豊かなまち	
3-1 森・里・川・海の保全と活用.....	19
3-1-① 森林と農地の保全と活用.....	20
3-1-② 水環境・水辺環境の保全と活用.....	20
3-1-③ 海を守る取組.....	21
3-2 生物多様性の保全.....	21
3-2-① 野生動植物との共生.....	22
3-2-② 豊かな自然の保全と活用.....	22
4 【生活・快適環境】誰もが健康で 快適に暮らせるまち	
4-1 健康に暮らせる環境の保全.....	22
4-1-① 大気環境の保全.....	23
4-1-② その他生活環境の保全.....	23
4-2 快適環境の確保.....	24
4-2-① 景観保全と緑地の確保.....	24
4-2-② 環境美化の推進.....	25
5 【環境保全活動】ともに学び行動する 環境意識が高いまち	
5-1 環境学習・環境保全活動の推進.....	25
5-1-① 環境学習機会の充実.....	26
5-1-② 環境保全活動の推進.....	26
5-2 環境情報の発信と共有.....	27
5-2-① 環境情報発信の充実.....	27
5-2-② 環境啓発イベントの推進.....	27
IV 出雲市役所の取組	28
「環境総合計画」数値目標の達成状況一覧.....	32

I はじめに

出雲市では、2023 年 3 月に、出雲市環境基本条例第 8 条に基づく「出雲市環境基本計画」と地球温暖化対策の推進に関する法律に定める「出雲市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】」を統合した、本市の総合的な環境政策、ゼロカーボンシティ推進の方向性を示す「出雲市環境総合計画（2023～2030）」を策定しました。

また、出雲市地球温暖化対策実行計画の事務事業編であり、市職員が率先して環境に配慮した事務事業の実践に取り組むため策定している「いずもエコオフィス・アクションプログラム」についても 2023 年 3 月の計画期間満了に伴い改訂し「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ（2023～2030）」を策定しました。

「出雲市環境レポート」は、これらの計画に掲げた目標の達成状況や施策の進捗状況を点検・評価し、その情報の共有を図ることで、市民の環境への関心を高めることを目的として毎年作成しているものです。

【2024 年度の目標達成状況】

本計画の数値目標 35 項目のうち、目標値（2026 年度※）に達した項目数は、2023 年度の 5 項目から 7 項目に増加しました。新たに目標値に達した項目は、「いずも縁結び電力㈱のエネルギーの地産地消率」、「有害鳥獣の農林産物に係る被害額」、「環境保全型農業直接支払交付金取組面積」の 3 項目です。一方で 2023 年度に目標値に達していた「ごみ最終処分量」は、2024 年度は目標値を下回ったため、全体としては 2023 年度から 2 項目増加し 7 項目となりました。

なお、目標値に達していない項目が 24 項目あり、今後もこれらの項目を中心に取組を強化していく必要があります。

評価・区分	2023 年度	2024 年度
目標値に達した（◎）	5 項目（14%）	7 項目（20%）
目標値に達していないが、基準年度値より改善した（○）	11 項目（32%）	10 項目（29%）
基準年度値より良いが、前年度値を下回った または基準年度値と変わらなかった（△）	4 項目（11%）	1 項目（3%）
基準年度値より悪くなった（×）	12 項目（34%）	13 項目（37%）
評価対象外（―）	3 項目（9%）	4 項目（11%）
合 計	35 項目（100%）	35 項目（100%）

※評価項目のうち、出雲市環境基本計画に該当するものについては当該計画に定める 2026 年度の「中間目標値」に対しての評価とし、出雲市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】に該当するものについては当該計画に定める 2030 年度の「短期目標値」に対しての評価としています。

※評価対象外の項目としているものは、2026 年度に実施予定の環境総合計画の中間見直しにおいて、アンケートにより把握することとしている項目のほか、測定方法が大きく変わり目標値との比較が困難になった項目です。

Ⅱ 出雲市の環境の状況

1 脱炭素社会構築

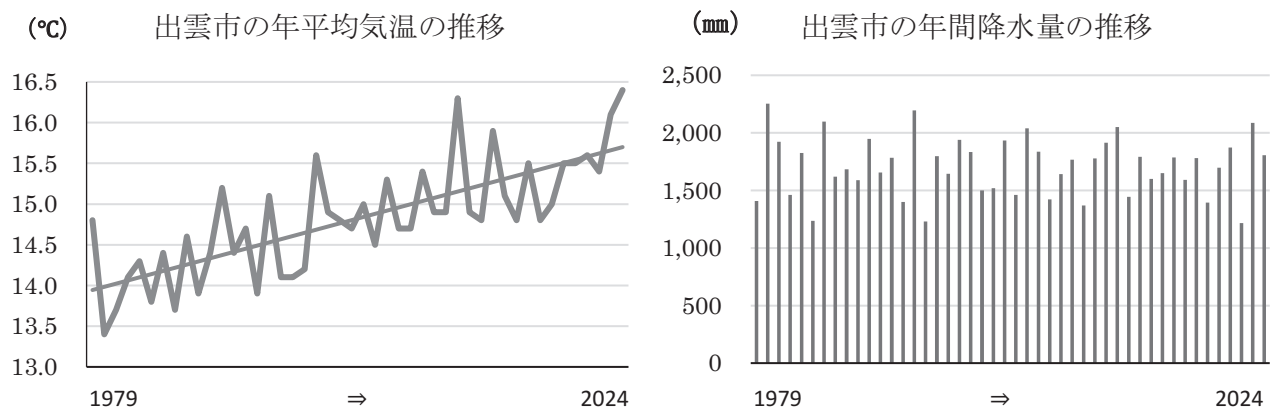
(1) 地球温暖化対策

① 出雲市の年間平均気温と年間降水量の推移

松江地方気象台が発表した出雲市の 2024 年の年平均気温は、16.4℃でした。

1980 年の年平均気温である 13.4℃と比較すると、3℃上昇しています。また、年平均気温の推移についても、下図のとおり年々上昇する傾向にあります。

なお、年間降水量は全体的な変化傾向は見られませんが、2024 年 7 月には最大 12 時間降雨量が観測史上 1 位となる大雨が降っており、災害の発生など、気候変動の生活への影響が懸念されます。こういった状況からも、市民一人ひとりの地球温暖化に対しての更なる取組が求められます。



② 二酸化炭素（CO₂）排出量削減の目標と達成状況

CO₂排出量の算定については、市独自の排出量の算定が困難であるため、環境省が毎年公表している「自治体排出量カルテ」の数値を活用していますが、「自治体排出量カルテ」の根拠となる統計数値が約 2 年遅れで公表されることから、このレポートでの排出量の数値は 2022 年度の数値となります。

なお、CO₂排出量削減の目標及び達成状況については次のとおりです。

CO₂排出量の削減率は、基準年度に比べると約 7.8%（約 126 千 t-CO₂）となり、2021 年度の削減率約 15.6%（約 250 千 t-CO₂）より減少しました。これは、産業部門における市内製造業の出荷額増に伴うエネルギー使用量の増や、家庭部門におけるコロナ禍の冷暖房をしながら換気を実施する等の生活スタイルの変化による影響が理由として推察されます。今後も各部門で継続して排出量削減の取組を進めていく必要があります。

i) CO₂排出量削減の目標

	年度	削減目標	
		出雲市	国
計画期間	2023～2030	—	—
基準年度	2013	—	—
短期目標	2030	46%	46%
中期目標	2040	65%	73%
長期目標	2050	カーボンニュートラル※	カーボンニュートラル

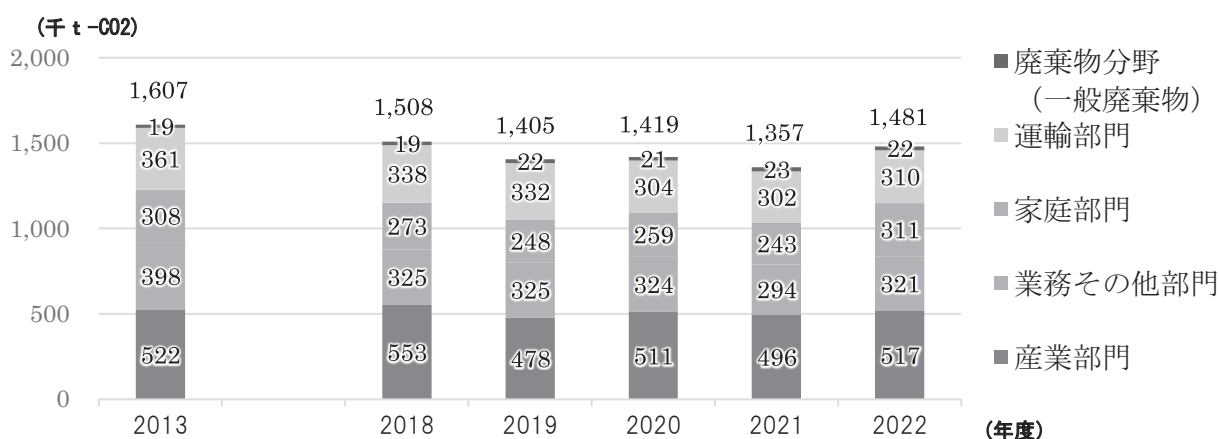
※カーボンニュートラル…温室効果ガスの排出量から植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

ii) CO₂排出量削減の目標の達成状況（2022 年度）

2022 年度排出量		1,481 千 t- CO ₂	
100	—	100	—
基準年度（2013 年度）排出量		1,607 千 t- CO ₂	
×100 = 7.8%削減			

③ CO₂排出量の現状

i) 部門別 CO₂排出量の推移



近年の傾向としては、2021 年度まではいずれの分野においても概ね横ばいか減少傾向でしたが、2022 年度は廃棄物を除くいずれの分野についても増加しており、特に産業部門（製造業）、家庭部門の排出量が増加しています。

ii) CO₂排出量の部門別・分野別構成比

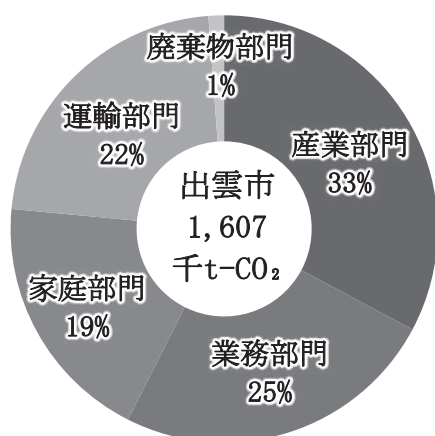
(千 t-CO₂)

年度	2013	2021	2022
部門	排出量	排出量 基準年度からの増減	排出量 基準年度からの増減 2021 年度からの増減
産業部門	522	496 △26	517 △5 21
製造業	466	406 △60	437 △29 31
建設業・鉱業	21	17 △4	16 △5 △1
農林水産業	35	72 37	64 29 △8
業務その他部門	398	294 △104	321 △77 27
家庭部門	308	243 △65	311 3 68
運輸部門	361	302 △59	310 △51 8
自動車	346	291 △55	299 △47 8
旅客	192	154 △38	164 △28 10
貨物	154	136 △18	135 △19 △1
鉄道	14	10 △4	10 △4 0
船舶	1	1 0	1 0 0
廃棄物分野(一般廃棄物)	19	23 4	22 3 △1
合計	1,607	1,357 △250	1,481 △126 124

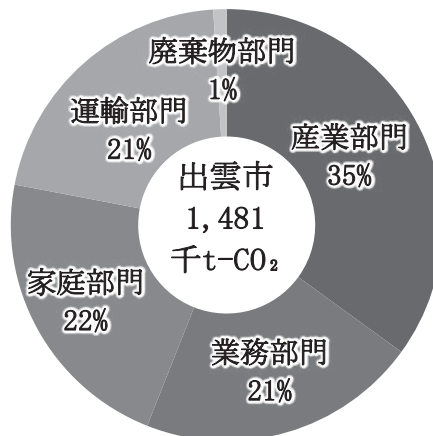
※端数処理により合計等と一致しない場合があります。

出典：環境省「自治体排出量カルテ」からの推計値

【2013 年度】



【2022 年度】

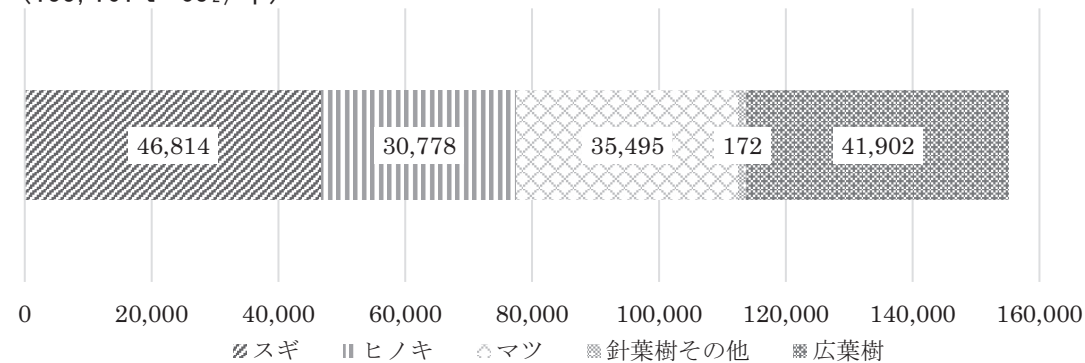


④ CO₂吸収量（森林吸収量）の現状と推移（樹種別）

森林吸収量については直近5年間の吸収量の平均値を採用しています。2024年度の吸収量は、2020年度から2024年度の各年度あたりの吸収量の平均値である155,161 t-CO₂となり、2023年度より増加しました。

なお、林齢の低い木は林齢が高い木よりCO₂吸収量が多いことから、今後も伐期を迎えた木々を伐採し、その後適切に造林をすることで、森林全体が若返り、CO₂吸収量が増加するよう取り組んでいきます。

森林による樹種別年間CO₂吸収量（2020年度～2024年度の平均）
（155,161 t-CO₂/年）



森林による樹種別年間CO₂吸収量の推移

		(t-CO ₂)			
樹種	年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
針葉樹計		114,666	114,820	112,451	113,259
スギ		47,336	47,682	46,403	46,814
ヒノキ		30,577	30,888	30,745	30,778
マツ		36,722	36,064	35,128	35,495
針葉樹その他		31	186	176	172
広葉樹		41,495	41,324	40,479	41,902
合計		156,161	156,145	152,930	155,161

*端数処理により合計等と一致しない場合があります。

【推計方法】

環境省「地方公共団体実行計画（区域施策編）算定・実施マニュアル」（算定手法編）」に基づき、以下の手法で推計しています。

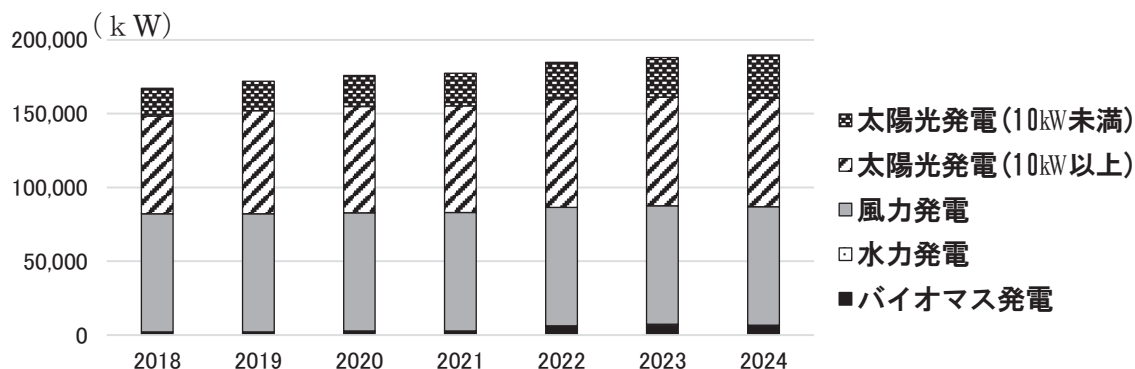
- 島根県の統計データ「森林資源関係資料」を基に本市の森林蓄積量（m³）を整理し、樹種・林齢毎に係数を乗じることで、当該年度末時点の炭素蓄積量を把握する。
- 2時点の炭素蓄積量を比較、その差をCO₂に換算し、その期間の年数で除することで期間内の単年度あたりの吸収量を推計する（2019年度末と2024年度末の2時点、期間の年数を5年で設定）。

⑤ 再生可能エネルギー※設備容量（FIT 制度※）の導入状況

2012 年に国により FIT 制度が開始されてから、全国において再生可能エネルギー設備の導入が拡大しました。出雲市においても多くの設備が導入されており、近年においても家庭用太陽光発電設備を中心に設備導入が進んでいます。

※再生可能エネルギー…太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスのエネルギー源で、永続的に利用することができると認められるもの。

※FIT 制度…固定価格買取制度。再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度。電力会社が買い取る費用の一部を電気利用者から賦課金という形で集め、現状コストの高い再生可能エネルギーの導入を支えていくもの。



年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
太陽光発電(10kW未満)	18,861	19,932	21,051	22,128	24,814	26,892	29,197
太陽光発電(10kW以上)	66,191	69,723	71,865	72,137	73,484	73,533	73,530
風力発電	80,035	80,035	80,074	80,247	80,247	80,247	80,247
水力発電	0	0	600	600	600	600	600
地熱発電	0	0	0	0	0	0	0
バイオマス発電	2,214	2,214	2,214	2,214	5,736	6,762	6,762
合計	167,300	171,904	175,803	177,326	184,882	188,033	190,334

※端数処理により合計等と一致しない場合があります。

⑥ 再生可能エネルギー設備等導入支援補助事業

2009 年度から、島根県の補助事業を活用し、住宅用太陽光発電設備や蓄電池を設置する市民等に補助金を交付し、導入支援を行っています。

2022 年度からは、蓄電池設置要件の緩和（太陽光発電設備と同時設置のみ対象としていたものを、既設太陽光発電設備への設置にも拡大）を行い、支援を充実しています。

近年、市民の脱炭素への関心の高まりもあり、補助件数が増加傾向となっています。引き続き制度周知を図り、再生可能エネルギー設備等の導入促進に取り組みます。

《再生可能エネルギー設備等導入補助件数の推移》

(件)

メニュー/年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
住宅用太陽光設備	88	271	371	401	303	172	86	98	91	46	39	55	47	58	105	117	2,348
蓄電池	(2017 から補助開始)								23	15	17	41	36	88	123	120	463
ソーラーシステム	(2015 から補助開始)						9	6	3	4	2	2	4	1	2	0	33
木質バイオマス熱利用設備	(2021 から補助開始)												13	15	20	16	64
林地残材の集積装置	(2023 にて補助終了)							2	0	0	0	0	0	0	0	0	2

⑦ J-クレジット制度（神話の國出雲さんさん倶楽部クレジット）の取組

J-クレジット制度とは、CO₂排出削減事業（太陽光発電システムの導入等）により削減したCO₂について、国の認証を受けてクレジット化し、企業等に販売できる制度です。

出雲市では、住宅用太陽光発電システムを設置した市民を会員とする「神話の國出雲さんさん倶楽部」が、会員宅で削減したCO₂をとりまとめてクレジット化し、企業等に販売する取組を2014年度から実施しています。収入は、更なるCO₂削減に有効活用するため、森林再生事業（出雲さんさん倶楽部の森づくり事業）等に活用しています。

◆ 2024年度末までの認証量及び販売量 4,510t-CO₂

＜神話の國出雲さんさん倶楽部クレジット認証・販売実績＞

年度	認証量 (t-CO ₂)	販売量 (t-CO ₂)
2014	248	—
2015	486	200
2016	633	86
2017	—	1,041
2018	1,441	42
2019	—	571
2020	1,484	2
2021	—	422
2022	—	1,103
2023	218	825
2024	—	218
合計	4,510	4,510

⑧ 出雲市地球温暖化対策協議会の取組

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、本市における地球温暖化対策を市民、事業者及び市が協働して推進することを目的として、「出雲市地球温暖化対策協議会」を設置し、省エネの取組や再生可能エネルギー導入の推進など、地球温暖化対策に向けた普及啓発活動を行っています。

主な活動

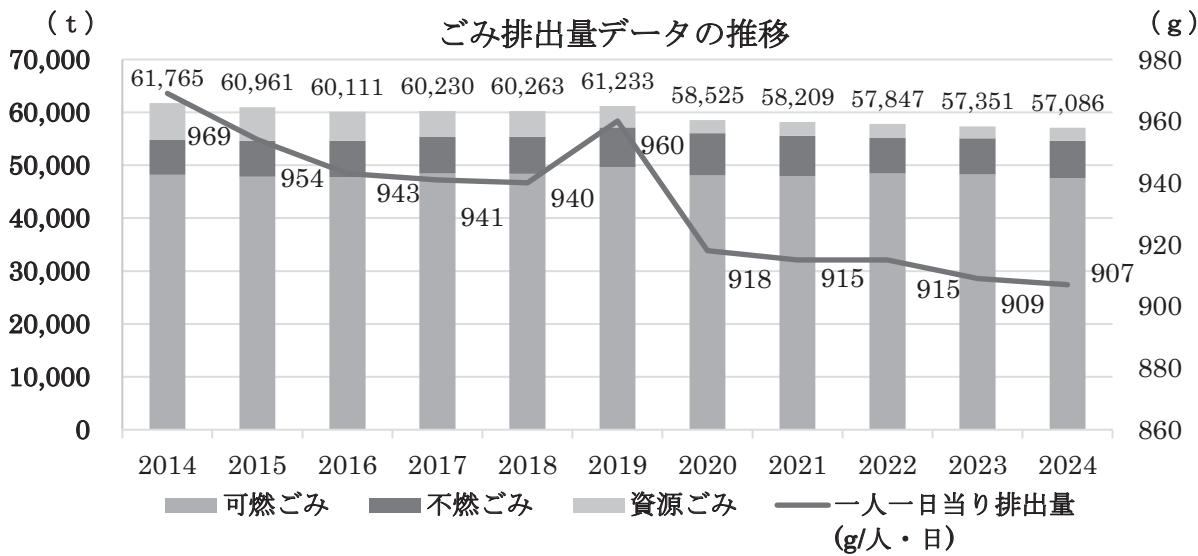
- ・エコ川柳コンテスト
 - 省エネやごみ減量の取組、地域の環境保全に関する意識を高めるため市民から川柳を募集、優秀作品は表彰し、イベントやホームページへ掲載し活用
- ・ゼロカーボンチャレンジ（一般向け、小学生向け）
 - 省エネや3Rなどの取組にチャレンジしてもらい、参加者にエコグッズをプレゼント
- ・「ストップ地球温暖化フェア」の開催
 - 3R工作体験、環境映画上映会、クイズラリー、パネル展示等
- ・いずも産業未来博における啓発ブース出展
 - ゼロカーボンクイズ、エコドライブ体験、苗木の無料配布、パネル展示
- ・省エネ講師派遣
- ・省エネ啓発CMの放送
- ・生涯学習講座の開催
- ・ゼロカーボン講演会の開催 など

2 循環型社会構築

2024 年度のごみ総排出量は、市全体で 57,086 t（暫定値）、市民一人一日当たり排出量は約 907 g（暫定値）となり、2023 年度と比べ微減となりました。2024 年度は火災ごみが多かったことから、不燃ごみは増加となりました。また資源ごみについては、木くずやペットボトル、古着等の排出量が増えたことから、増加に転じました。

出雲市のごみ排出量の推移												(t)
種別／年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (暫定値)	2024 (参考値)
可燃ごみ	48,167	47,816	47,747	48,429	48,398	49,676	48,067	47,927	48,426	48,285	47,505	47,468
不燃ごみ	6,704	6,794	6,875	6,934	6,993	7,475	7,985	7,678	6,797	6,788	7,112	6,501
資源ごみ	6,894	6,351	5,489	4,867	4,872	4,082	2,473	2,604	2,624	2,278	2,469	2,469
総排出量	61,765	60,961	60,111	60,230	60,263	61,233	58,525	58,209	57,847	57,351	57,086	56,438
一人一日当り 排出量(g)	969	954	943	941	940	960	918	915	915	909	907	896

※2023 年度までは火災・災害ごみを除く。2024 年度からは一般廃棄物処理事業実態調査の規定に基づく。
※参考値は 2024 年度の排出量から火災・災害ごみを除いた数値。



3 自然環境

(1) 森・里・川・海の保全と活用

① 水環境

環境基準の類型が適用されている市内の 4 河川、2 湖沼の 2024 年度の環境基準達成状況は【表 1】及び【表 2】のとおりです。

斐伊川、神戸川、平田船川、湯谷川の 4 河川の水質は、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及等に伴い改善されてきており、ここ 1 2 年間では、ほとんどの年度で河川の環境基準を満たしました。

宍道湖及び神西湖の 2 湖沼は、環境基準を達成していません。宍道湖については、第 8 期宍道湖湖沼水質保全計画（2024 年度島根県策定）に基づき、また、神西湖については神西湖水環境保全指針（2004 年度出雲保健所・出雲市策定）に基づき、引き続き水環境保全の取組を推進していきます。

【表1】 河川の水域別 BOD*環境基準達成状況(BOD75%値*の変化)

(mg/l)

水域名		環境基準			2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
		類型	基準値	地点数	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
斐伊川	神立橋	AA	1mg/l以下	1	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6	1.0	0.6	0.8	0.8	0.6	0.7	0.5
神戸川	上流	AA	1mg/l以下	2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8
	下流	A	2mg/l以下	2	0.6	0.8	1.0	0.9	0.8	1.0	1.2	1.2	0.7	0.9	0.7	0.7
平田船川	上流	A	2mg/l以下	1	1.7	1.5	1.4	1.7	1.7	1.6	1.6	2.7	1.4	1.5	1.5	2.4
	下流	A	2mg/l以下	1	1.8	1.6	1.4	2.0	1.3	1.9	1.8	2.8	1.7	1.9	1.6	1.9
湯谷川	上流	A	2mg/l以下	1	1.1	1.3	1.3	1.5	1.0	1.5	1.2	2.1	1.1	1.4	1.2	1.7
	下流	A	2mg/l以下	1	1.2	1.2	1.2	1.4	0.8	1.7	1.3	1.9	1.3	1.4	1.2	1.8

【表2】 湖沼の水域別 COD*環境基準達成状況(COD75%値の変化)

(mg/l)

水域名		環境基準			2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
		類型	基準値	地点数	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
穴道湖		A	3mg/l以下	5	5.7	4.9	4.7	5.0	4.9	5.3	5.8	6.5	5.5	4.6	5.7	5.6
神西湖		B	5mg/l以下	2	7.1	6.6	6.1	5.3	5.7	5.5	6.0	5.6	6.0	5.5	7.3	6.8

出典：島根県公共用水域及び地下水水質測定結果

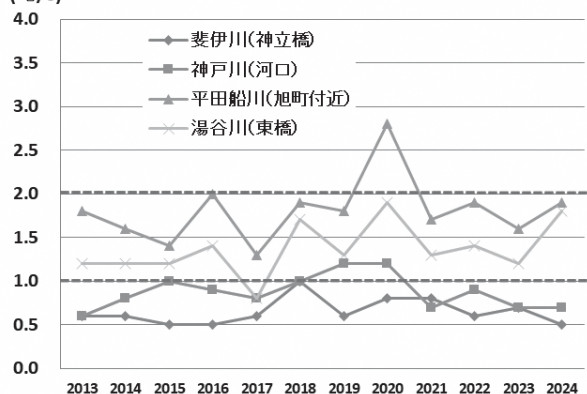
※表中の経年変化数値について、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。
また、**網掛け**は環境基準を達成したもの。(経年変化数値の単位はすべて mg/l)

※BOD（生物化学的酸素要求量）…河川の汚濁の程度を示す指標。水中の有機物等が微生物により分解されるときに消費される酸素量をmg/lで表したものの。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示す。

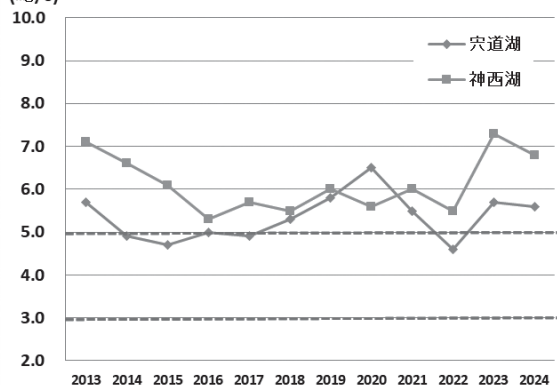
※COD（化学的酸素要求量）…湖沼や海域の汚濁の程度を示す指標。水中の有機物等を酸化剤で酸化するとき消費される酸素量をmg/lで表したものの。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示す。

※75% 値 …一年間に得られた日間平均値の全データを、その値の大きさ順に並べて、小さいほうから数えて 75%目の値。環境基準と比較して水質の程度を判断する場合に用いられる。

(mg/l) 河川におけるBODの経年変化(BOD75%値)



(mg/l) 湖沼におけるCODの経年変化(COD75%値)



② 海岸等一斉清掃活動

海岸に漂着する海洋ごみ対策や、河川・湖のごみ対策のため、以前から市民ボランティアによる清掃活動が行われています。市も集積されたごみの回収を行っているところですが、海洋ごみ問題等に関心を持ってもらい、清掃活動に協力してもらえるよう、今後も啓発活動に取り組んでいきます。

なお、市は日本財団の「海と日本プロジェクト※」に賛同し、2022年7月に「海ごみゼロ宣言」を行いました。

※海と日本プロジェクト…日本財団を中心に、総合海洋政策本部、国土交通省が連携し、全体的に海洋保護の取組を展開するプロジェクト。

(2) 生物多様性の保全

① 野生動植物との共生

2001 年度から公益財団法人ホシザキグリーン財団に委託し、市内主要河川等に生息する水生動植物を調査しています。

2024 年度は、平田地域のため池 15 地点で調査を行い、全部で 57 種の水生動植物がみつかりました。このうち、島根県や環境省のレッドデータブックに掲載されている希少動植物 9 種類を確認し、5 種類の外来生物を確認しました。

また、2027 年度のトキ放鳥・野生復帰に向け、シンポジウムの開催など普及啓発活動を実施するとともに、餌資源量調査などの生息環境整備に取り組みました。

4 生活・快適環境

(1) 健康に暮らせる環境の保全

① 大気環境

市内では、出雲保健所で二酸化窒素 (NO₂) などの大気汚染物質を常時監視しています。

2023 年度の環境基準達成状況は、次表のとおり、全ての項目で環境基準値を達成しました。

大気環境基準達成状況 (○達成、×未達成)

大気汚染物質名	基準年度 (2020)	前年度 (2022)	現 状 (2023)	環境基準
二酸化窒素 (NO ₂)	○	○	○	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下
浮遊粒子状物質 (SPM) ※	○	○	○	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下で、かつ、1 時間値 0.20 mg/m ³ 以下
光化学オキシダント (O _x) ※	×	×	○	1 時間値が 0.06ppm 以下
微小粒子状物質 (PM _{2.5}) ※	○	○	○	1 年平均値が 15 μg/m ³ 以下で、かつ、1 日平均値が 35 μg/m ³ 以下

※浮遊粒子状物質 (SPM) …大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が 10 ミクロン以下のもの

※光化学オキシダント (O_x) …オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質 (中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。)

※微小粒子状物質 (PM_{2.5}) …大気中に浮遊する粒子状物質であって、粒径が 2.5 ミクロンの粒子を 50% の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子

② 騒音

自動車騒音については、「自動車騒音常時監視 5 か年計画 (2021 年度出雲市策定)」に基づき測定を実施しています。2024 年度は、市内の主要な幹線道路に面する 3 区間 (評価対象 1,093 戸) の評価を行いました。評価対象となったすべての住戸で、昼夜とも環境基準 (沿道 昼間: 70 デシベル以下、夜間: 65 デシベル以下) を達成しました。

幹線道路の環境基準達成状況 (2024 年度)

路 線 名	評価区間 始 点 ～ 終 点	評価対象 戸 数	環 境 基 準 達 成 戸 数	環 境 基 準 達 成 率
一般国道 9 号	斐川町併川 ～ 斐川町直江	591 戸	591 戸	100%
一般国道 184 号	塩冶有原町 ～ 渡橋町	348 戸	348 戸	100%
県道斐川出雲大社線	高岡町 ～ 大社町北荒木	154 戸	154 戸	100%

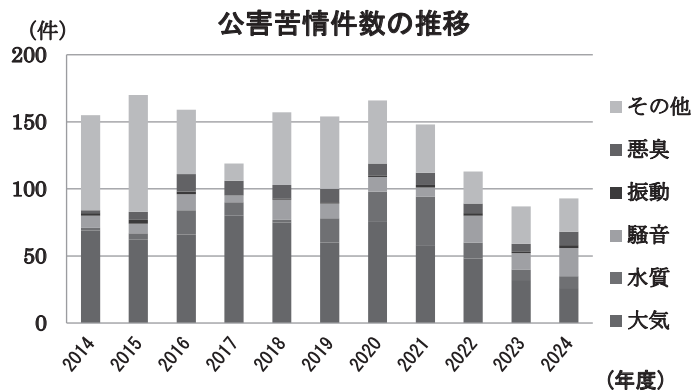
③ ダイオキシン類

ダイオキシン類は、微量でも人の健康に有害な影響を及ぼすおそれのある物質で、出雲保健所がダイオキシン類対策特別措置法に基づく常時監視を行っています。

2023 年度は、大気 1 地点 (出雲保健所)、地下水 1 地点 (湖陵町常楽寺) で調査を行い、すべての地点で環境基準値 (大気: 0.6pg-TEQ/m³、地下水: 1 pg-TEQ/L) を満たしていました。

④ 公害苦情

公害苦情件数は近年減少傾向にありましたが、2024 年度中の受理件数は 93 件あり、2023 年度より微増しました。そのうち、野焼き等大気之苦情が 26 件で全体の約 3 割を占めています。また、騒音に関するものが 12 件から 21 件と増加しました。



(2) 快適環境の確保

① 環境美化活動

全市的な美化活動である市民一斉クリーンデーや、18万人ポイ捨て一掃大作戦の参加人数は、近年は概ね横ばいです。

今後も全市的な美化活動の拡大と意識高揚を目指し、より多くの市民に参加してもらえるように取り組んでいく必要があります。

市民美化活動の参加者数（人）

活動名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
市民一斉クリーンデー	12,517	6,869	15,358	15,139	14,600	15,846
18万人ポイ捨て一掃大作戦	14,800	9,965	15,457	16,163	14,533	13,504
計	27,317	16,834	30,815	31,302	29,133	29,350

5 環境保全活動

(1) 環境学習・環境保全活動の推進

① 環境学習機会の充実

自然環境の保護や、気候変動といった環境課題への理解を深め、持続可能な社会を築くうえで、学習機会の充実を図ることはとても重要です。環境学習・活動の拠点となる斐川環境学習センターや出雲科学館、風の子学習館、浜遊自然館などの関連施設では、イベントを開催するなど利用者を増やす取組を進め、全体としての利用者数が 2023 年度と比べ約 2%増加しました。(2023 年度：57,597 人、2024 年度：58,526 人)

今後も市民にとってより魅力的な学習拠点となるよう努め、幅広い年齢層への環境学習の機会を確保する取組を継続していきます。

また、地域や学校教育における環境学習の推進を図るため、出雲市環境保全連合会の支部への情報提供の支援や高校生の海ごみ調査への協力、水生動植物についての学習教材の小学校への提供の取組も引き続き行っていきます。

② 環境情報の発信と共有

環境に関わる情報について、広報紙やホームページ、SNS、デジタルサイネージ等様々な媒体を用いて広報を行いました。

また、環境啓発イベントとして、「ストップ地球温暖化フェア」の開催や、「いずも産業未来博」への出展を行い、その中で 3R 工作体験やゼロカーボンクイズ等様々な催しを通じて広く市民への啓発を実施しました。

今後もゼロカーボンシティの実現に向け、市民、事業者に対してより一層の情報発信・啓発を行っていきます。

Ⅲ 出雲市の環境への取組

ここでは、数値目標の達成状況と2024年度の取組状況について報告します。

【評価の判断基準】

- ◎ : 目標値に達した。
- : 目標値に達していないが、基準年度値より改善した。
- △ : 基準年度値より良いが、前年度値を下回った。または基準年度値と変わらなかった。
- × : 基準年度値を下回った。
- － : 評価対象外（2027年度の間見直しの際にアンケートにより把握、または目標再検討予定）

1 【脱炭素社会構築】ゼロカーボンシティ実現に向けチャレンジするまち

1-1 地球温暖化対策

1-1-① 省エネルギーの推進【重点取組①省エネルギー対策】

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	短期目標値 (2030年度)	2024年度 評価
1	省エネルギー機器導入などの対策を実施している事業者の割合	17% (2022年度)	—	—	40%	—
	2027年度の間見直しの際に事業者アンケートを実施し把握する。					
2	新築・改築時におけるZEB※の導入割合 (全国)	0.42% (2020年度)	0.7% (2022年度)	1.3% (2023年度)	15%	○
	ZEBの導入のメリットや性能などの情報発信や、市内関係事業者との連携により更なる普及啓発を図る。					
3	新築・改築時におけるZEH※の導入割合 (島根県)	16% (2020年度)	17.4% (2022年度)	22.6% (2023年度)	31%	○
	ゼロカーボン加速化事業ZEH補助金の周知を図り、ZEH住宅の導入を促進する。					

※ZEB…net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）の略語。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。（ビルや工場、事務所等）

※ZEH…net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の略語。快適な室内環境を実現しながら、家庭で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした住宅。

(2) 主な取組

	項目	取組内容
1	ZEHの導入促進	ZEH導入に対しての市の補助制度について、ゼロカーボン講演会での補助制度の周知や、関係企業に対して補助制度の周知を行った。 ・ZEH補助件数：0件（前年度：5件）
2	省エネルギー改修の促進	既設の工場や事務所、住宅の省エネルギー改修（断熱化等）についてホームページによる啓発を行った。
3	公共施設の省エネルギー化	市の新規施設及び既存施設において以下のとおりLED照明を設置し省エネ化を行った。 ・新規施設 斐川行政センター、鷺鷥コミュニティセンター、旅伏小学校、すさのおの郷トイレ、大津小学校屋体（改築分）、今市小学校校舎（改築分）、庄原小学校校舎（増築分） ・既存施設 出雲弥生の森博物館ほか28施設
4	省エネルギー機器導入の促進	高効率な機器への買い換えや省エネルギー家電製品の購入について、ホームページによる啓発を行った。 町内会等が新設又は更新するLED防犯灯に対して補助を行った。 ・新設又は更新533灯（前年度：新設又は更新621灯）（補助対象数）

1-1-① 省エネルギーの推進【重点取組②デコ活※（COOL CHOICE）の推進】

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	短期目標値 (2030年度)	2024年度 評価
1	デコ活（COOL CHOICE）の実施割合（家庭）	66.3% (2022年度)	—	—	80%	—
	2027年度の間見直しの際に市民アンケートを実施し把握する。					

※デコ活…環境省を中心とした『脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動』の愛称で、二酸化炭素（CO₂）を減らす（DE）脱炭素（Decarbonization）と、環境に良いエコ（Eco）を含む“デコ”と活動・生活を組み合わせた新しい言葉。それまでの国民運動の名称「COOL CHOICE」は2023年に「デコ活」に移行した。

	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	短期目標値 (2030年度)	2024年度 評価
2	デコ活（COOL CHOICE）の実施割合（事業者）	51.0% (2022年度)	—	—	70%	—
2027年度の間見直しの際に事業者アンケートを実施し把握する。						

(2) 主な取組

	項目	取組内容
1	デコ活（COOL CHOICE）の取組の促進	本市は環境省を中心とした「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動（愛称：デコ活）」に2022年10月の開始当初から参画しており、2023年11月10日には新しい豊かな暮らしとゼロカーボンシティの実現をめざし「出雲市デコ活宣言」を行った。 また、2025年2月に「みんなでデコ活！ できることからやってみよう」をテーマとしてストップ地球温暖化フェアを開催し、市民への啓発を行った。
2	省エネルギー行動の促進	広報紙、ホームページ、SNS、デジタルサイネージ、ケーブルテレビCM放送等により、電気使用量が増える時期の省エネやエコドライブなど、ゼロカーボンにつながる行動について紹介し、情報発信を行った。 ストップ地球温暖化フェアの体験コーナーにおいて、エコサポしまねの協力により、うちエコ診断※を実施し、家庭での省エネ、省CO ₂ 対策について提案を行った。 「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ※」及び「市職員ゼロカーボンアクション50※」に基づき、各職場に設置した環境活動推進員を中心として照明・空調機器の適正使用やクールビズ等の省エネ行動実践の取組を行った。
3	環境配慮行動に対するポイント制度導入の検討	2025年2月にスタートした出雲市デジタル地域通貨※「いずも縁結びPAY」における環境配慮行動の実践に対する行政ポイント付与に向けて、環境イベントや講演会への参加等、付与対象の具体的な検討を行った。
4	公共交通機関、徒歩や自転車利用の促進	交通事業者、関係団体と連携し、公共交通の利用促進を図った。 【一畑電車】 一畑電車沿線地域対策協議会（県、松江市、出雲市）を通じ、利便性向上により利用促進を図った。 【路線バス等】 出雲市生活バスの時刻表をJR・一畑電車との接続を考慮し改正することにより利用促進を図った。また、各バス路線の沿線地域で組織する運行協議会において、利用促進の啓発を行った。 【JR】 JRの活性化事業等を実施する「島根県鉄道整備連絡調整協議会」において、「鉄道利用のモデルプラン」を作成するとともに、「JR路線利用促進事業（会議費等助成事業）」を実施し、利用促進を図った。 出雲市公共交通計画に掲げる施策に取り組むことにより、利便性が高く、持続可能な公共交通体系の構築を目指し、公共交通の利用促進を図った。 ・佐田地域において、ドアツードアの定額乗合交通を本格運行した。 ・市内路線バスの時刻表、路線図の多言語化を行った。 ・Googleマップに路線バスのデータを提供し、全国対応乗換案内、経路検索アプリに情報を提供した。 ホームページでエコ通勤優良事業所認証制度※について紹介し、事業者に対して徒歩や自転車などによる環境に優しい通勤の実践を呼びかけた。 また市役所では、「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ」においてエコ通勤によるCO ₂ 削減目標を定め、毎月第3水曜日を含む週を「エコ通勤ウィーク」とし、徒歩や自転車を利用した通勤の呼びかけを行った。
5	エコドライブ運動の促進	11月の「エコドライブ推進月間」に、広報紙により周知を行った。また、いずも産業未来博及びストップ地球温暖化フェアにおいて、エコドライブ体験や啓発チラシの配布を行った。

※うちエコ診断…環境省が提供する、家庭の年間エネルギー使用量や光熱水費などの情報をもとに、専用のソフトを使って、気候やライフスタイルに合わせた省エネ、省CO₂対策を提案するサービス。

※いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ…市が行う事務及び事業から発生する環境への負荷の低減に向けた、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条第1項に基づく、温室効果ガスの排出抑制のための実行計画。

※市職員ゼロカーボンアクション50…市の事務事業における市職員の省エネ行動の方針と具体的な内容(50項目)について定めたもの。

※デジタル地域通貨…特定の地域の中で流通し加盟店で使える、デジタル化された通貨のこと。

※エコ通勤優良事業所認証制度…公共交通利用推進等マネジメント協議会により、エコ通勤に関して高い意識を持ち、エコ通勤に関する取組を積極的に推進している事業所を認証・登録し、その取組を国民に広く紹介する制度。

	項目	取組内容
6	働き方改革の促進（業務の効率化とエネルギー使用量の削減）	<p>【中小企業者等物価高騰対策省エネ支援事業】</p> <p>電力・ガス・食料品等の価格高騰対策として、県が実施するエネルギーコスト削減緊急支援事業補助金を受けた事業者に対し、補助金の確定額に上乗せで補助することで、中小企業者等が行うエネルギーコストの削減に資する取組を支援した。</p> <p>・交付件数 132件（前年度 289件）</p> <p>【中小企業者等デジタル化促進支援事業】</p> <p>中小企業者等デジタル化促進支援事業補助金で企業のデジタル化推進への支援を行った。</p> <p>・交付件数 155件（前年度 104件）</p> <p>【市役所での取組】</p> <p>・業務効率化とペーパーレス化を推進するため、会議室に大型モニターと職員が容易に持ち運びやすい軽量型パソコンを導入し、Web会議やペーパーレス会議が可能な環境を整備した。</p> <p>・職員各自が気温や体調にあわせて柔軟に服装を選択する「働きやすい服装勤務」を本格実施した。</p>
7	相談体制の充実	<p>中小事業者の脱炭素の取組を支援するためのセミナー「ムリなくムダなく脱炭素のススメ」を開催した。</p> <p>・参加者数 44名（24事業者等）</p>
8	各分野における取組の促進	<p>新出雲農業チャレンジ事業補助金等により、スマート農業※機器の導入支援を行った。</p> <p>みどりの食料システム戦略緊急対策交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート事業）を活用し、出雲市グリーンなぶどう栽培体系実証協議会にて、加温器とヒートポンプを組み合わせた加温技術による温室効果ガス削減とコスト削減及び環境モニタリングに基づくサイド巻き上げの自動開閉技術による省力化を検証し、栽培マニュアルを策定のうえ、ホームページで情報発信を行っている。</p>
9	デジタルファーストの推進計画の着実な進行（電子申請サービスなど）	デジタル技術を活用し、行政サービスの利便性を向上させるため、電子申請の拡大や窓口予約システムの導入など、窓口改革プロジェクトを進めた。

※スマート農業…ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現等を推進している新たな農業。

1-1-2 再生可能エネルギー※の導入推進【重点取組③再生可能エネルギーの導入】

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	短期目標値 (2030年度)	2024年度 評価
1	いずも緑結び電力(株)※エネルギーの地産地消率	60% (2021年7月) ※設立時目標	72%	73%	73%	◎
	出雲SORARIE大社太陽光発電所からの再生可能エネルギーの調達量が増加したため。					
2	いずも緑結び電力(株)排出係数	0.281 kg-CO ₂ /kwh (2021年度)	0.286 kg-CO ₂ /kwh (2022年度)	0.102 kg-CO ₂ /kwh (2023年度)	0.095 kg-CO ₂ /kwh	○
	主要な電源である出雲エネルギーセンターの電力について、FIP制度※を活用することで排出係数が低減した。					

※再生可能エネルギー…太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスのエネルギー源で、永続的に利用できると認められるもの。
 ※いずも緑結び電力(株)…2021年7月に官民共同出資により設立された、出雲エネルギーセンターにおけるごみ焼却で発生する熱を利用した発電等を主要電源として、市内公共施設に電力を供給する地域新電力会社。

※FIP制度…FIT制度のように固定価格で買い取るのではなく、再生可能エネルギー発電事業者が卸市場などで売電したとき、その売電価格に対して一定のプレミアム(補助額)を上乗せすることで再生可能エネルギーの導入促進を図るもの。

(2) 主な取組

	項目	取組内容
1	再生可能エネルギーの導入促進	<p>住宅用太陽光発電システムを設置する市民に対し、2009年度から設置費用の一部について補助を行っている。また、2017年度からは新たに蓄電池設備に対する補助を開始した。</p> <p>・太陽光発電 補助件数（累計）：2,348件（補助件数：117件 前年度：105件）</p> <p>・蓄電池 補助件数（累計）：463件（補助件数：120件 前年度：123件）</p> <p>太陽光発電システム等を設置する事業所に対し、設置費用の一部について補助を行った。</p> <p>・太陽光発電補助件数：11件（前年度：3件）</p> <p>・蓄電池：4件（前年度：0件）</p>

	項目	取組内容
1	再生可能エネルギーの導入促進	木質バイオマス熱利用設備を設置する個人及び事業所に対し、設置費用の一部について補助を行った。 ・木質バイオマス熱利用設備（薪ストーブ等）補助件数（累計）：64件（補助件数：16件、前年度：20件）
		太陽熱利用設備を設置する個人及び事業所に対し、設置費用の一部について補助を行っている。 ・太陽熱 補助件数（累計）：33件（補助件数：0件 前年度：2件）
2	再生可能エネルギー発電事業者の誘致	再生可能エネルギーポテンシャル調査を行い、調査結果をホームページにより情報提供している。
3	公共施設における再生可能エネルギー設備の導入	市の新築施設への太陽光発電設備の設置について、関係各課と協議を実施し、原則設置を行っている。また、既存施設についても可能性調査を実施し、導入可能な施設を検討している。 ・設置施設（新築）：斐川行政センター、鶴鷺コミュニティセンター、旅伏小学校 ・設置施設（既存）：大津小学校、平田学校給食センター
4	J-クレジット制度※活用の拡充	「神話の國出雲さんさん倶楽部（住宅用太陽光発電設備を設置した市民を会員とする任意団体）」が削減したCO ₂ を環境価値として市がとりまとめ、クレジット化し企業等に売却するための取組を行った。 ・クレジット販売量：218t-CO ₂ （前年度：825t-CO ₂ ）
		森林J-クレジット創出に向け検討を行った。
5	技術革新や新たな知見などへの対応	新たな技術の情報収集に努めた。 ・次世代太陽光発電パネル

※J-クレジット制度…省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。

1-1-③ 環境にやさしい交通手段の推進【重点取組④次世代自動車の導入】

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	短期目標値 (2030年度)	2024年度 評価
1	新車販売台数における次世代自動車 ※の販売台数の割合 (全国)	39.2% (2019年度)	49.0% (2022年度)	54.0% (2023年度)	70%	○
		次世代自動車について、広報紙、ホームページなどにより普及啓発を進め、導入促進のための支援策を検討する。				

※次世代自動車…ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル自動車。

(2) 主な取組

	項目	取組内容
1	次世代自動車の導入促進	導入促進を図るため、事業所に対して導入費用の一部について補助を行った。 充電設備補助件数：1件（前年度：0件） 電気自動車補助件数：1件（前年度：0件）
2	充電等設備の整備促進	道の駅キララ多伎のEV充電器について、民設民営で運営することとし、機器更新を行った。
3	公共交通機関、徒歩や自転車利用の促進	交通事業者、関係団体と連携し、公共交通の利用促進を図った。（再掲） 【一畑電車】 一畑電車沿線地域対策協議会（県、松江市、出雲市）を通じ、利便性向上により利用促進を図った。 【路線バス等】 出雲市生活バスの時刻表をJR・一畑電車との接続を考慮し改正することにより利用促進を図った。また、各バス路線の沿線地域で組織する運行協議会において、利用促進の啓発を行った。 【J R】 JRの活性化事業等を実施する「島根県鉄道整備連絡調整協議会」において、「鉄道利用のモデルプラン」を作成するとともに、「JR路線利用促進事業（会議費等助成事業）」を実施し、利用促進を図った。 出雲市公共交通計画に掲げる施策に取り組むことにより、利便性が高く、持続可能な公共交通体系の構築を目指し、公共交通の利用促進を図った。（再掲） ・佐田地域において、ドアツードアの定額乗合交通を本格運行した。 ・市内路線バスの時刻表、路線図の多言語化を行った。 ・Googleマップに路線バスのデータを提供し、全国対応乗換案内、経路検索アプリに情報を提供した。

	項目	取組内容
3	公共交通機関、徒歩や自転車利用の促進	ホームページでエコ通勤優良事業所認証制度について紹介し、事業者に対して徒歩や自転車などによる環境に優しい通勤の実践を呼びかけた。（再掲） また市役所では、「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ」においてエコ通勤によるCO ₂ 削減目標を定め、毎月第3水曜日を含む週を「エコ通勤ウィーク」とし、徒歩や自転車を利用した通勤の呼びかけを行った。
		【グリーンスローモビリティ※運行事業】 出雲大社周辺エリアにおいて、二次交通を利用した観光周遊を促進するため、グリーンスローモビリティの運行実験を2025年2月7日～11日の5日間有償で実施し、安全性や周遊効果、持続可能な運営方法を検証した。 【シェアサイクル事業】 サイクルツーリズムの推進や二次交通が脆弱なエリアでの観光施設への移動手段として、シェアサイクルの実証実験を2024年9月～11月末までの3か月間実施し、持続可能な運営方法を検討した。 【レンタサイクル事業】 市内3か所に貸出場所（返却は4か所）を設置し、事業を実施した。 ・利用台数 2,641台（前年度：2,550台）
4	エコドライブ運動の促進	11月の「エコドライブ推進月間」に、広報紙により周知を行った。（再掲） また、いずも産業未来博及びストップ地球温暖化フェアにおいて、エコドライブ体験や啓発チラシの配布を行った。

※グリーンスローモビリティ…時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待される。

1-1-④ 森林整備による二酸化炭素吸収源の確保【重点取組⑤豊かな森林づくりの推進】

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	短期目標値 (2030年度)	2024年度 評価
1	CO ₂ 吸収量（森林吸収量）	156 千t-CO ₂ (2021年度)	152.9 千t-CO ₂	155.1 千t-CO ₂	156 千t-CO ₂	×
		林齢の低い木は林齢が高い木よりCO ₂ 吸収量が多いことから、今後も伐期を迎えた木々を伐採し、その後適切に造林をすることで、森林全体が若返り、CO ₂ 吸収量が増加するよう取り組んでいく。				
2	森林整備面積	149ha (2021年度)	66.1ha	48.0ha	200ha	×
		民間による主伐や間伐が進まなかったため。今後、民有林については森林環境譲与税を活用し林業事業体へ積極的に支援を行うとともに、市有林については2025年3月に策定した「いずもの森ブルースカイ・グリーン計画」に基づき主伐・間伐を推進していく。				
3	間伐等実施面積	116ha (2021年度)	45.5ha	25.4ha	160ha	×
		民間による間伐が進まなかったため。今後、民有林については森林環境譲与税を活用し林業事業体へ積極的に支援を行うとともに、市有林については2025年3月に策定した「いずもの森ブルースカイ・グリーン計画」に基づき間伐を推進していく。				
4	市産材取扱量	12,729m ³ (2021年度)	14,279m ³	10,907m ³	15,500m ³	×
		民間による間伐が進まなかったため。今後、民有林については森林環境譲与税を活用し林業事業体へ積極的に支援を行うとともに、市有林については2025年3月に策定した「いずもの森ブルースカイ・グリーン計画」に基づき主伐・間伐を推進し、市産材の増産を図る。				
5	新規林業就業者数（累計）	2人 (2021年度)	7人	17人	29人	○

(2) 主な取組

	項目	取組内容
1	公益的な機能が発揮できる森づくり支援	住民団体等による里山整備にかかる費用について補助を行った。 ・補助団体数：10団体、17.5ha（前年度：11団体、19.5ha）
2	循環型林業の実現のための支援	林業事業体での担い手雇用に係る経費について補助を行っている。 ・補助対象者：0人（前年度：1人）

	項目	取組内容
3	市産材利用の推進	市産材利用促進のため、構造材に市産材を使用した住宅の新築、増改築、修繕、又は模様替えに対して補助を行った。 ・支援数:16件、176.6㎡（前年度：18件、233.5㎡）
4	木質バイオマスの利用促進（林地残材の活用）	間伐材搬出に対しての補助を行った。 ・出荷材積数：195.18t（前年度：181.75t）

2 【循環型社会構築】「もったいない」の心で築く3Rのまち

2-1 3Rの推進

数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	ごみ排出量 (一人一日当たりごみ排出量)	58,209 t (915g/人・日)	57,351 t (909g/人・日)	57,086t (907g/人・日) ※暫定値	56,751 t (901g/人・日)	○
	減少傾向だが、人口動態や景気の動向に伴い増減する可能性も考えられる。引き続き、食品ロスの削減を推進するとともに、ごみ減量化やリサイクルに係る研修会、環境学習教室、環境イベントなどにおいて啓発を図っていく。					
2	ごみ最終処分量 (最終処分率)	9,243 t (15.9%)	8,817 t (15.4%)	9,218t (16.1%) ※暫定値	8,942 t (15.8%)	△
	2024年度は、火災ごみが多かった。火災に伴うごみはほとんどが埋め立てられるため、火災ごみの多い年は施設処分量が多くなる傾向がある。なお、火災ごみを除くと目標達成している。					

2-1-① 3Rの推進

主な取組

	項目	取組内容
1	リデュース（発生抑制）の推進	図書館（2か所）での企画展示、ストップ地球温暖化フェアでの出展を行い、食品ロス削減を啓発した。 また、食料品高騰・食品ロス対策事業（2023年度事業）において募集した推進店舗に啓発グッズを追加配布し、食品ロス削減を推進した。 【食品ロスをへらそう！推進店舗】 登録店舗168店舗中28店舗へ配付 レジ袋の無料配布中止やマイバッグ持参運動を通じ、ごみの減量化を推進した。 ・協力事業者数：12事業者 30店舗（前年度：12事業者 31店舗） ・マイバッグ持参率：84.3%（前年度：84.8%） 広報紙やホームページ等のほか、講習会等において生ごみの水切り促進の啓発を行った。
2	リユース（再使用）の推進	市内にあるリサイクルショップの所在地・連絡先等をホームページ等で紹介し、リユース、リサイクルを呼びかけた。 古着の回収拠点の拡充について、次年度からの回収開始に向け、拠点2か所の増設を行った。
3	リサイクル（再生利用）の推進	ホームページ等を活用し、リサイクルの促進やリサイクルステーションの活用について周知を行った。 スーパー等が行う店頭回収の取組をホームページ等で紹介し、周知を図った。
4	環境に優しい製品の普及と利用促進	県では、島根発の優れたリサイクル製品を「しまねグリーン製品」に認定し、資源の循環的な利用の促進とリサイクル産業の育成を図っている。 市では、しまねグリーン製品の普及を図るために情報発信を行うとともに、製品を利用した公共工事を行った。 「市職員ゼロカーボンアクション50」に基づき、市が率先して環境配慮型製品を購入することで、需要拡大を図った。
5	全体的事項	出雲市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）について、ホームページ等を活用し、基本計画の着実な推進につながるような啓発や施策を行った。 廃プラスチック処理のあり方について、国や他自治体の動向を注視し情報収集に努め、引き続き検討を行っていく。

2-1-② 廃棄物の適正処理の推進

主な取組

	項目	取組内容
1	分別の徹底と効率的な収集システムの構築	ホームページ等を活用し、ごみの分別徹底に関する周知を行った。
2	ごみ処理施設等での適正処理	可燃ごみ処理施設においては、燃焼・運転技術・排ガス処理システムの適切な管理により、環境負荷の低減を図りながら適正な処理を行った。 不燃ごみ処理施設においては、手分別及び破砕処理による分別によりリサイクルを推進した。 し尿等処理施設においては、膜分離高負荷脱窒素処理方式により、リンや窒素成分の除去等放流水への配慮、臭気対策等の環境対策を図り、適正に処理を行った。
3	ごみ不法投棄等の対策	島根県の廃棄物適正処理対策推進事業に協力し、パトロール等を行った。 野外等でのごみ不法焼却をなくすため、広報紙、ホームページにより周知を行った。

3 【自然環境】トキが飛び交う 自然豊かなまち

3-1 森・里・川・海の保全と活用

数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	里山林・森林保全活動団体数	8団体	11団体	10団体	10団体	◎
	引き続き活動団体への支援を行っていく。					
2	有害鳥獣の農林産物に係る被害額	4,500千円	3,700千円	1,691千円	3,100千円	◎
	前年度値より減少した。引き続き数値目標の達成に向け有害鳥獣被害対策を推進していく。					
3	環境保全型農業直接支払交付金※取組面積	250ha	276ha	311ha	300ha	◎
	既存取組団体の取組面積の増加、新規取組団体の参加により取組面積が拡大した。					
4	学校給食における地元産食材の使用割合（金額ベース）	72.7%	69.2%	72.51%	77%	×
	地元農産物の入荷量が不足し、一部県外産を使用したこと等により基準年度値をやや下回った。今後もマッチング会議等により、地場産品の割合を増やせるよう地産地消の推進に努める。					
5	市内河川水質の環境基準等達成率（BOD※）	100%	97%	97%	100%	×
	類型指定河川において環境基準を満たさない箇所があった。河川管理者と連携し、水質改善に向けた啓発等を実施していく。					
6	宍道湖のCOD※75%値※（環境基準3.0mg/ℓ）	5.5mg/ℓ	5.7mg/ℓ	5.6mg/ℓ	4.6mg/ℓ	×
	水質の環境基準を達成していない。第8期宍道湖・中海湖沼水質保全計画に基づき、引き続き水質改善の取組が必要である。					
7	神西湖のCOD75%値（環境基準5.0mg/ℓ）	6.0mg/ℓ	7.3mg/ℓ	6.8mg/ℓ	5.6mg/ℓ	×
	水質の環境基準を達成していない。神西湖水環境保全指針に基づき、引き続き水質改善の取組が必要である。					
8	汚水処理人口普及率※	89.5%	90.2%	90.7%	93.3%	○
	計画に基づき着実に増加している。今後も普及に向け計画的に整備を図る。					

※環境保全型農業直接支払交付金…化学肥料・農薬を5割以上低減する取組とセットで行う、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に対する交付金。
※BOD…生物化学的酸素要求量（Biochemical Oxygen Demand）。河川の汚濁程度を示す指標で、水中の有機物等が微生物により分解されるときに消費される酸素量。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示す。
※COD…化学的酸素要求量（Chemical Oxygen Demand）。湖沼や海域の汚濁程度を示す指標で、水中の有機物等を酸化剤で酸化するときに消費される酸素量。数値が大きいほど汚濁が進んでいることを示す。
※75%値…一年間に得られた日間平均値の全データを、その値の大きき順に並べて、小さいほうから数えて75目の値。環境基準と比較して水質の程度を判断する場合に用いられる。
※汚水処理人口普及率…汚水処理施設が整備された区域内人口÷行政区内人口（汚水処理施設：公共下水道、農漁業集落排水、合併処理浄化槽など）

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
9	水洗化率（接続率）※	91.5%	91.9%	92.2%	92.5%	○
	整備区域内人口と新規接続人口の対比状況により、年度ごとの数値に多少の増減はあるが、新規接続人口は年々増加している。今後も、未接続世帯へ文書送付や戸別訪問を行い水洗化率向上を図る。					
10	海岸等一斉清掃参加者数	9,204人	9,821人	8,120人	12,000人	×
	6～7月に行われる大規模な海岸清掃のうち、悪天候により中止となったものがあった。環境意識の高揚に効果的な事業であるため、今後も広報等により広く周知し参加拡大に努める。 内訳：神西湖清掃701人、穴道湖一斉清掃562人、海岸清掃6,057人、神戸川清掃800人、斐伊川一斉清掃は雨天により中止					

※水洗化率(接続率)…水洗便所設置済人口÷汚水処理施設が整備された区域内人口

3－1－① 森林と農地の保全と活用

主な取組

	項目	取組内容
1	森林・里山の保全と活用	<p>住民団体等による里山整備にかかる費用について補助を行った。（再掲）</p> <p>・補助団体数：10団体、17.5ha（前年度：11団体、19.5ha）</p> <p>市産材利用促進のため、構造材に市産材を使用した住宅の新築、増改築、修繕、又は模様替えに対して補助を行った。（再掲）</p> <p>・支援数：16件、176.6㎡（前年度：18件、233.5㎡）</p> <p>中山間地域等直接支払を活用し、耕作放棄地の増加が懸念される中山間地域の集落の支援を行った。</p> <p>有害鳥獣の侵入防止柵等の設置補助、狩猟免許取得にかかる経費補助等を行った。</p>
2	農地の適正管理と活用	<p>環境保全型農業（減農薬、減化学肥料）の促進について、広報紙等で周知を行った。</p> <p>出雲農業振興地域整備計画に基づき優良農地の確保に努めた。また、農用地区域からの除外等の申出があった場合は、慎重に審査を行った。</p> <p>遊休農地等を農地へ復旧するために耕作者へ補助金を交付した。</p> <p>【アグリビジネススクール※事業】</p> <p>ぶどうチャレンジ講座、柿チャレンジ講座、多伎いちじくチャレンジ講座、アスパラガス＆白ねぎチャレンジ講座の4講座を開講した。</p> <p>・講座開設期間：2024年1月～12月</p> <p>・受講者数：34人（うち31人講座修了、うち3人新規就農） 前年：30人（うち25人講座修了、うち0人新規就農）</p> <p>穴道湖市民農園（市営）の管理運営及び市内の民間市民農園の広報活動（ホームページ及び広報紙掲載）を行った。</p>

※アグリビジネススクール…2006年に、地域農業やアグリビジネスを実践、けん引する人材づくりの場として、県内で初めて開設した講座。

3－1－② 水環境・水辺環境の保全と活用

主な取組

	項目	取組内容
1	水域への排水対策	<p>汚水処理施設の整備促進を図った。</p> <p>・公共下水道整備面積：70ha（前年度：17 ha）</p> <p>・個人設置合併処理浄化槽：216基（前年度：201基）</p> <p>広報紙等を活用し、下水道事業の普及啓発活動を行った。また、下水道未接続世帯に対し、文書送付や戸別訪問を行い、早期接続を促進した。</p> <p>・河川で機械を使用する際の油類の取扱について、注意喚起や指導を行った。</p> <p>・交通事故等により自動車から油類が用水路等に流出した際には、油吸着材やオイルフェンス・マット等を使用し、二次被害発生の防止に努めた。</p>

	項目	取組内容
2	水辺環境の保全と活用	【自然環境調査研究事業】 市内に生息・生育する水生動植物の状況調査を行い、その成果を冊子にして小学生への啓発を行う事業を、公益財団法人ホシザキグリーン財団に委託して実施した。 また、学校においては、身近な自然の動植物調査や河川の水質調査、校内で動植物の飼育栽培など、各学校で地域にあわせた特色ある活動を行った。
		自治会及び各種団体がボランティア活動で行う河川や湖の除草、浚渫（しゅんせつ）活動の支援を行った。 また、集められたごみの回収・処分を行った。 ・ふれあい愛護活動（河川） 支援数：129件（前年度：131件）
		宍道湖一斉清掃を通じて宍道湖の「ワイズユース（賢明な利用）の推進」をPRした。
3	広域連携による水質浄化の推進	国土交通省出雲河川事務所、島根県、松江市、出雲市の4団体で設置する「宍道湖水環境改善協議会」では、斐伊川水系の上下流交流事業や宍道湖絵画コンクール等を実施した。
		中海・宍道湖一斉清掃の一環として、平田・斐川地域の宍道湖沿岸において一斉清掃を実施した。 ・実施日：2024年6月9日 ・参加者数：562人 ・ごみ回収量：1.08 t
		国土交通省出雲河川事務所、鳥取県、米子市、境港市、島根県、松江市、安来市、出雲市が会議を行い、情報共有を行った。

3-1-③ 海を守る取組

主な取組

	項目	取組内容
1	海洋ごみ対策	市民ボランティアによる海岸清掃活動によって集められた海岸漂着ごみの回収を行った。 海岸ごみ回収量：46 t（前年度：96 t）
		危険物（ガスボンベ、一斗缶など）の漂着物があれば、島根県（出雲県土整備事務所、出雲保健所など）に対応依頼等をして連携強化をした。
		市と日本財団「海と日本プロジェクト※」との連携による「神々の国出雲 海ごみゼロプロジェクト」の一環として、一般社団法人海と日本プロジェクトinしまねが主催した「スポGOMI甲子園2024・島根県大会」に協力した。
		出雲市ポイ捨て禁止推進協議会において、イベント会場でのポイ捨て禁止キャンペーン、環境美化表彰、ポイ捨て禁止ポスターコンクール、出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦の呼びかけ等のポイ捨て禁止の啓発活動を実施した。また、高校生の海ごみ調査に協力し、結果についていずも産業未来博でステージ発表を行った。
2	海岸保全に向けた気運の醸成	「島根半島・宍道湖中海ジオパーク※」について、ジオサイトのモニタリングを実施し、危険場所等の確認を行うとともに、認定ジオガイドの養成講座の実施などジオパークを守り、伝えていくための人材育成に取り組んだ。

※海と日本プロジェクト…日本財団を中心に、総合海洋政策本部、国土交通省が連携し、全体的に海洋保護の取組を展開するプロジェクト。

※ジオパーク…大地の成り立ちを学びながら、同じ考えのもとで保全活動や教育活動を行い、地球と地域の未来を考えて取り組むエリア。

※日本遺産…地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。

3-2 生物多様性の保全

数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	ホテルの生息が確認された地区の割合（生息地区数）	70% (30地区)	65% (28地区)	77% (33地区)	80% (35地区)	○
		調査方法を変更し、従来の各コミュニティセンターに対しての聴き取りに加え、市職員からの情報提供も件数に加えることとしたところ地区数が増加した。今後もホテルが生息できる環境の維持・向上に向け、市民とともに自然環境の保護に努める。				
2	市主催の自然体験事業の参加者数	6,661人	10,627人	11,557人	14,000人	○
		前年度より参加者数が増加した。今後も利用者増につながるような魅力的な講座等の開催を行うとともに、様々なツールを積極的に活用し情報発信に努める。 内訳：出雲科学館 436人、風の子楽習館 8,888人、湊原体験学習センター（浜遊自然館）973人、斐川環境学習センター 1,260人				

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
3	グリーンツーリズム※の受入団体数	6団体	6団体	4団体	8団体	×
県と協力して情報発信に努め、加盟団体数の増を目指す。						

※グリーンツーリズム…都市住民が豊かな自然や美しい景観を求めて農山漁村を訪れ、交流や体験を通じて楽しむ余暇活動、田舎体験。

3-2-① 野生動植物との共生

主な取組

	項目	取組内容
1	生態系を守る取組	【自然環境調査研究事業】（再掲） 市内に生息・生育する水生動植物の状況調査を行い、その成果を冊子にして小学生への啓発を行う事業を、公益財団法人ホシザキグリーン財団に委託して実施した。 希少野生植物の生育地である「佐田町反辺のイズモコバイモ群生地」について、保全団体が実施する一般公開に協力し、ホームページによる広報等を実施した。 有害鳥獣の侵入防止柵等の設置補助、狩猟免許取得にかかる経費補助等を行った。（再掲） 都市計画区域内の3,000㎡以上または区域外の10,000㎡以上の開発行為等について、開発行為の事業者に対し、地域の生活環境保全上の見地から意見書の交付を行った。 ・意見書交付数：10件（前年度：13件） 特定外来生物※の市内での発生状況について県と緊密に連絡をとり情報共有を行った。また庁内での情報共有、広報紙やホームページによる市民への周知を行った。
2	トキと人が共生できる環境づくり	トキの放鳥・野生復帰に向け、トキの生態を季節ごとにまとめた啓発ポスターを作成し、希望のあった小中学校に掲出した。また、幼児向けのオリジナル絵本の作成やシンポジウムの開催など、普及啓発に取り組んだ。 また、稗原地区野尻町内の水田18か所において、餌資源量調査を実施したほか、環境にやさしい農業研究会の活動において、トキの餌場環境に資する水田管理の実証実験を実施するなど、生息環境整備に取り組んだ。 環境保全型農業（減農薬、減化学肥料）の促進について、広報紙等で周知を行った。（再掲）

※特定外来生物…外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から国が指定する。指定された生物の取り扱いについては、輸入、放出、飼養等、譲渡しの禁止といった厳しい規制が効く。

3-2-② 豊かな自然の保全と活用

主な取組

	項目	取組内容
1	自然環境の保全と活用	地域住民の協力のもと、自然公園内のパトロールや草刈り、ごみ拾いなどを行い、景観の保護及び管理を行った。 県の「みんなで守る郷土の自然」制度の選定地である、「佐田町反辺のイズモコバイモ群生地」について、保全団体が実施する一般公開に協力しホームページによる広報等を実施した。
2	自然とのふれあいの機会の創出	目田森林公園、わかあゆの里、うさぎ森林公園、伊秩やすらぎの森及び水辺、八雲風穴、天王山キャンプ場等の管理を通し、自然にふれあうことのできるこれらの施設を広く周知することで自然体験の推進に努めた。 穴道湖一斉清掃を通じて穴道湖の「ワイズユース（賢明な利用）」の推進をPRした。（再掲） グリーンツーリズムについて、県のホームページ「しまね田舎ツーリズム」において情報を発信した。

4 【生活・快適環境】誰もが健康で 快適に暮らせるまち

4-1 健康に暮らせる環境の保全

数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	大気汚染測定値 (SPM※) (環境基準 0.10mg/㎡以下)	0.012mg/㎡ (2020年度)	0.014mg/㎡ (2022年度)	0.014mg/㎡ (2023年度)	0.10mg/㎡ 以下	◎
2	自動車騒音の環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	◎

※SPM(浮遊粒子状物質)…Suspended Particulate Matter。大気中に浮遊している粒子状物質で、代表的な大気汚染物質の一つ。環境基準においては粒径 10 μm以下のものと定義しており、微小のため、大気中に長時間滞留し、肺や気管等に沈着して高濃度で呼吸器に悪影響を及ぼす。

4-1-① 大気環境の保全

主な取組

	項目	取組内容
1	車からの排気ガスの排出削減	<p>交通事業者、関係団体と連携し、公共交通の利用促進を図った。（再掲）</p> <p>【一畑電車】 一畑電車沿線地域対策協議会（県、松江市、出雲市）を通じ、利便性向上により利用促進を図った。</p> <p>【路線バス等】 出雲市生活バスの時刻表をJR・一畑電車との接続を考慮し改正することにより利用促進を図った。また、各バス路線の沿線地域で組織する運行協議会において、利用促進の啓発を行った。</p> <p>【JR】 JRの活性化事業等を実施する「島根県鉄道整備連絡調整協議会」において、「鉄道利用のモデルプラン」を作成するとともに、「JR路線利用促進事業（会議費等助成事業）」を実施し、利用促進を図った。</p> <p>ホームページでエコ通勤優良事業所認証制度について紹介し、事業者に対して徒歩や自転車などによる環境に優しい通勤の実践を呼びかけた。（再掲） また市役所では、「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ」においてエコ通勤によるCO₂削減目標を定め、毎月第3水曜日を含む週を「エコ通勤ウィーク」とし、徒歩や自転車を利用した通勤の呼びかけを行った。</p> <p>次世代自動車に係る設備導入促進を図るため、事業所に対して、導入費用の一部について補助を行った。（再掲） 充電設備補助件数：1件（前年度：0件） 電気自動車補助件数：1件（前年度：0件）</p> <p>11月の「エコドライブ推進月間」に、広報紙により周知を行った。（再掲） また、いずも産業未来博及びストップ地球温暖化フェアにおいて、エコドライブ体験や啓発チラシの配布を行った。</p> <p>出雲市公共交通計画に掲げる施策に取り組むことにより、利便性が高く、持続可能な公共交通体系の構築を目指し、公共交通の利用促進を図った。（再掲） ・佐田地域において、ドアツードアの定額乗合交通を本格運行した。 ・市内路線バスの時刻表、路線図の多言語化を行った。 ・Googleマップに路線バスのデータを提供し、全国対応乗換案内、経路検索アプリに情報を提供した。</p>
2	大気汚染の防止	<p>ごみの野外焼却に関する苦情対応として、発生人に指導を行った。 ・苦情対応件数：26件（前年度：32件）</p>

4-1-② その他生活環境の保全

主な取組

	項目	取組内容
1	騒音・振動・悪臭の防止	<p>騒音・振動規制法及び悪臭防止法に基づき、規制基準を超えている場合は、改善勧告や改善命令を行うこととしている。改善勧告等の事例はなかった。 ・騒音・振動苦情対応数：23件（前年度：13件） ・悪臭苦情対応数：10件（前年度：6件）</p> <p>自動車騒音常時監視業務5か年実施計画に基づき騒音調査を行った。</p> <p>条例により公共の場所では夜10時以降の花火を規制しており、看板、ホームページ等により周知を行った。</p>
2	暮らしやすい環境づくり	<p>県では、昭和60年から出雲空港周辺地域で、航空機騒音調査を行っている。 ・県測定結果値：環境基準値内 また県では、大気、公共用水域の水質・底質、地下水及び土壌のダイオキシン類についても調査を行っている。 ・県測定結果値：環境基準値内</p> <p>ホームページで、アスベストに関する情報の提供を行った。また、建設リサイクル法による建築物解体工事等の届出書を受理しており、アスベスト等の有害物質の除去を伴う旨の記載があった場合は、適切に処理するよう指導を行った。 ・指導件数：115件（前年度：109件）</p>

	項目	取組内容
2	暮らしやすい環境づくり	<p>苦情相談に応じ、管理がされず近隣に悪影響を及ぼす空き家等について、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき所有者調査を行い、所有者に対し適正管理依頼により指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正管理依頼対象空家件数（実数）：59件（前年度：43件） ・適正管理依頼所有者等人数（延べ数）：60人（前年度：60人）

4－2 快適環境の確保

数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	市全体の市民美化活動参加者数	30,815人	29,133人	29,350人	35,000人	×
	<p>参加者数は近年は横ばいの状況である。引き続き、広報紙での周知や懸垂幕の掲揚などにより市民の参加を募っていく。</p> <p>内訳：市民一斉クリーンデー 15,846人、18万人ポイ捨て一掃大作戦 13,504人</p>					
2	美化サポートクラブ※登録団体数	39団体	38団体	38団体	50団体	×
	<p>引き続き、ホームページ等で活動内容や加入方法を紹介し、自主的に美化活動へ取り組む事業所や団体等の加入促進を図る。</p>					

※美化サポートクラブ…道路や公園、河川などで定期的にボランティア活動として啓発指導、美化推進に協力する事業所・団体を出雲市が登録。

4－2－① 景観保全と緑地の確保

主な取組

	項目	取組内容
1	自然・歴史的景観の整備と保全	<p>出雲らしい景観を守り、育て、創り、次世代に引き継いでいくために、出雲市全域を景観計画の区域とし、市民はもとより来訪者に対して良好な景観の形成を進めている。</p> <p>一定規模以上の建築工事等を実施する場合や、景観形成地域内における建築工事等の行為に対し、事前届出により、外観や緑化等に関して指導・助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模行為届出数：90件（前年度：114件） ・景観形成地域の届出数：22件（前年度：33件） ・国の機関等の通知数：31件（前年度：26件） <p>また、良好な都市景観及び調和の取れた街なみの形成を促進するため、指定した地域において修景助成を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成件数：1件（前年度：1件） <p>島根県屋外広告物条例に基づき、許可事務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新 規：196件（前年度：212件） ・更新分：850件（前年度：912件） <p>市民の合意形成が図られた地域については、地域ごとの特性を踏まえた景観形成基準を設定し、重点的に景観形成を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成地域：5地域 <p>築地松景観保全対策推進協議会（島根県、出雲市）において、築地松の維持管理に要する経費の助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剪 定：117件（前年度：173件） ・伐倒、補植：18件（前年度：13件） ・地上散布：214件（前年度：200件） ・樹幹注入：17件（前年度：28件） <p>築地松所有者や市民の方々に、築地松景観の素晴らしさを知ってもらい、保全意識の向上を図るため、築地松景観保全対策推進協議会の設立30周年の記念事業として、築地松景観フォトコンテストを2か年事業で開催し、最優秀賞1点、優秀賞1点、特別賞3点、入選15点を選定した。また、築地松の魅力や情報を広く発信するため、築地松景観保全対策推進協議会ホームページの随時更新や、広報紙発刊を行った。</p>

	項目	取組内容
2	公園の整備と利用促進	公園施設長寿命化計画に基づき、公園遊具等の改修を行った。
		洋式化が完了していないトイレについて手すりを設置するなどの対応を進めた。
3	花と緑のまちづくり	出雲市環境保全連合会の一部の支部において、地域の花壇の管理や花の苗の配布活動を実施し、環境緑化、環境美化を推進した。
		各学校で野菜や花の栽培を積極的に行った。地域の施設にプレゼントしたり、地域の方と一緒に野菜を調理、食事する学校もあった。
		快適で良好な街なみ景観を形成するため、街路樹の維持管理を行った。

4-2-② 環境美化の推進

主な取組

	項目	取組内容
1	ごみのポイ捨て対策等の推進	出雲市環境保全連合会の支部においては、定期的に道路や公園等の美化活動、不法投棄等の巡視パトロール、地域の文化祭等での環境啓発活動を行った。
		出雲市ポイ捨て禁止推進協議会においては、イベント会場でのポイ捨て禁止キャンペーン、環境美化表彰、ポイ捨て禁止ポスターコンクール、出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦の呼びかけ等のポイ捨て禁止の啓発活動を実施した。また、高校生の海ごみ調査に協力し、結果についていずも産業未来博でステージ発表を行った。
		6月の環境月間に、出雲市環境保全連合会、コミュニティセンター、小中学校に対してごみ拾い等の実施を呼びかけた。広報紙にポイ捨て禁止協議会の事業内容や不法投棄禁止を呼びかける記事を掲載した。
		島根県の廃棄物適正処理対策推進事業に協力し、パトロール等を行った。（再掲）
2	市民等美化活動の充実	希望する市民へ飼い犬のフン放置禁止の看板配布を行った。また、散歩時の飼い犬のフン処理方法について広報紙による啓発を行った。
		6月の環境月間に実施する「市民一斉クリーンデー」、10月の「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦」への参加を、広報紙等を通じて市民へ呼びかけて実施した。
		・「市民一斉クリーンデー」参加者：15,846人（前年度：14,600人） ・「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦」参加者：13,504人（前年度：14,533人） ボランティアとして美化活動等に実施協力する市民団体や事業所を募集し「美化サポートクラブ」として認定した。 ・認定数 38団体 980人（前年度：38団体 970人）

5 【環境保全活動】ともに学び行動する 環境意識が高いまち

5-1 環境学習・環境保全活動の推進

数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	環境学習施設の利用者数	46,299人	57,597人	58,526人	53,000人	◎
		前年度より利用者数が増加した。今後も幅広い年齢層に対する環境学習の機会の確保に努めていく。 内訳：出雲科学館（環境学習関連） 436人、風の子楽習館 38,085人、湊原体験学習センター（浜遊自然館） 11,568人、斐川環境学習センター 5,034人、市内ごみ処理施設 3,403人				

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
2	省エネ講師※、ごみ減量化アドバイザー※等の派遣回数	54回	26回	10回	70回	×
	省エネ講師：出雲市環境保全連合会支部への案内により周知を行った。今後も更なる周知に努め派遣回数の増となるよう取り組む。 ごみ減量化アドバイザー等：コミュニティセンターや学校等でごみ減量化等に関する研修会を行った。アドバイザーの減少や高齢化等の課題があり、今後制度の見直しを行う予定としている。					

※省エネ講師…家庭や地域における省エネ行動の促進を図ることを目的に、出雲市地球温暖化対策協議会が、地域や教育現場等に研修会講師を派遣するもの。
 ※ごみ減量化アドバイザー…市が委嘱する人材で、地域や教育現場において、ごみ減量や分別等に関する啓発活動、指導、助言を行う。

5-1-① 環境学習機会の充実

主な取組

	項目	取組内容
1	地域における環境学習の促進	出雲市環境保全連合会の支部の活動が活発となるよう、環境保全活動に対する助成制度や、省エネ講師の派遣についての案内を行った。 出雲市環境保全連合会支部において環境学習講座や環境関連施設の見学等を実施した。
2	環境学習拠点施設での学習機会・内容の充実と利用促進	【風の子楽習館】 ・自然観察会や自然体験イベント等の開催：20回（前年度：18回） ・体験学習等（木の実を使った小物作り等）の開催：186回（前年度：180回） 受講者数計：8,888人（前年度：7,896人） 【斐川環境学習センター】 地域環境や地球環境を守り、次世代に引き継ぐための拠点施設として利用促進を図った。 ・委託事業（環境講座、体験教室、自然観察） 開催回数：106回、受講者数：1,096人（前年度：開催回数111回、受講者数1,206人） ・自主事業（感動する写真を撮ろう、竹かご作り、環境学習と奉仕作業） 開催回数：30回、受講者数：164人（前年度：開催回数31回、受講者数163人）
3	学校教育等における環境教育の推進	廃棄物処理施設の見学やごみ問題について考えたり、動植物の観察や飼育栽培、身近な河川の水質調査等を行った。また、地域の清掃活動や海岸清掃などのボランティア活動にも積極的に参加した。 【高校生海ごみ調査】 市内の高校生と海岸ごみを拾い、ごみの種類別・言語表記別調査を行った。 ・場所：三津海岸（佐香地区） ・参加人数：29名
4	指導者育成・確保（しまね環境アドバイザー※等の事業との連携）	出雲市生涯学習講座で、しまね環境アドバイザーに省エネルギーについての講師を依頼し、連携して事業を実施した。

※しまね環境アドバイザー…島根県が、環境に関する広範囲かつ専門的な知識や豊富な経験を有する人材として、認定・委嘱した人のこと。環境アドバイザーは県民や事業者などの環境保全活動に関し、相談・助言を行うことが期待されている。

5-1-② 環境保全活動の推進

主な取組

	項目	取組内容
1	全体的事項	自治会や各種団体等がボランティア活動で行う道路の除草や溝掃除、海岸清掃等により出されたごみの回収・処分を行った。 こどもエコクラブ※について、ホームページでの情報発信や、2025年2月開催のストップ地球温暖化フェア内で、こどもエコクラブ※加入募集のポスターを掲示し、加入促進を図った。 ・加入数：4団体 115人（前年度：5団体 118人）

※こどもエコクラブ…次代を担う子どもたちが、地域の中で主体的に地域環境・地球環境に関する学習や活動を展開できるように支援するため、1995年に当時の環境庁が主体となって発足した事業。（財）日本環境協会に事務局を置き、市町村がコーディネーターとなって登録などの役割を担っている。

5-2 環境情報の発信と共有 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	中間目標値 (2026年度)	2024年度 評価
1	環境総合ウェブサイト「出雲エコなび」の閲覧件数	152,715件	165,876件	—	200,000件	—
	「出雲エコなび」についてスマートフォン対応等ウェブアクセシビリティ※向上のためのリニューアルを2024年5月に実施したが、リニューアル後の新ホームページと従前のホームページで閲覧件数のカウント方法が異なったため、目標値との比較ができなくなった。今後、目標設定について検討する。（参考値：102,546件）					

※ウェブアクセシビリティ…高齢者や障がいのある人も含め、すべての人がホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できること。

5-2-① 環境情報発信の充実

主な取組

	項目	取組内容
1	デジタルを活用した情報発信の充実	「出雲エコなび」について、省エネの呼びかけや環境イベント情報、地域のエコ活動、市の環境に関するデータなど様々な情報を掲載し、コンテンツの充実を図った。 SNSやデジタルサイネージ等を活用し環境情報発信を行った。
2	全体的事項	市の広報紙「広報いずも」において、3Rや環境美化の推進、脱炭素につながる取組など環境に関する様々な情報の発信を行った。 「ごみの分け方・出し方ガイドブック」、「ごみ収集カレンダー」、「ごみ出しおたすけアプリ『さんあ〜る』」において、多言語での情報発信を行った。

5-2-② 環境啓発イベントの推進

主な取組

	項目	取組内容
1	全体的事項	脱炭素社会実現に向けた市民・事業者への一層の啓発推進のため、次のとおりイベントを開催（出展）した。 ・いずも産業未来博（出展） 2024年11月9・10日開催（出雲ドーム） 市及び出雲市地球温暖化対策協議会の取組紹介等の展示、ゼロカーボンクイズ、エコドライブ体験、緑の募金苗木配布等実施 ・ストップ地球温暖化フェア（開催） 2025年2月1日開催（大社文化プレイスうらら館） 「みんなでデコ活！ できることからやってみよう」をテーマに、市及び出雲市地球温暖化対策協議会の取組紹介等の展示、夏休みゼロカーボンチャレンジ・エコ川柳コンテスト表彰式、映画鑑賞会、LEDランタンづくり、うちエコ診断、3R工作体験、クイズラリー等実施 【高校生海ごみ調査】（再掲） 市内の高校生と海岸ごみを拾い、ごみの種類別・言語表記別調査を行った。（再掲） ・場所：三津海岸（佐香地区） ・参加人数：29名 【子ども探検スクール】 中海・穴道湖・大山圏域市長会が実施する「子ども体験スクール」においてトキの観察・学習を行い、自然環境保全の大切さについて理解を深めた。 ・場所：出雲市トキ学習コーナー、トキ公開施設 ・参加人数：23名 出雲市環境保全連合会支部が実施するイベントへの参加、講師派遣等を行った。 市又は市が関与する実行委員会等で大規模イベントや会議を実施する際は、環境配慮について事前計画・事後評価を行った。（計7イベント、計画達成率98%）

Ⅳ 出雲市役所の取組

市が行う事務事業については、2023 年度から 2030 年度までを計画期間として策定している「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ」により省エネ・省CO₂対策を推進しています。

1 エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（改正省エネ法）に基づくエネルギー使用量の状況

特定事業者名 (※)	2013年度 (基準年度)	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
	原油換算 (kℓ)	原油換算 (kℓ)	基準 年度比	原油換算 (kℓ)	基準 年度比	原油換算 (kℓ)	基準 年度比	原油換算 (kℓ)	基準 年度比
市役所	13,242	9,978	75.4%	7,734	58.4%	7,229	54.6%	7,417	56.0%
上下水道局	2,659	4,871	183.2%	4,825	181.5%	4,164	156.6%	4,127	155.2%
教育委員会 (学校を含む)	2,551	2,364	92.7%	2,576	101.0%	2,256	88.4%	2,330	91.3%
合計	18,452	17,213	93.3%	15,135	82.0%	13,649	74.0%	13,874	75.2%

※特定事業者について

改正省エネ法では、年間エネルギー使用量（原油換算値）が 1,500 kℓ以上の事業者を特定事業者とし、省エネルギー及び非化石エネルギーへの転換に必要な措置の実施が求められています。

本市では市役所、上下水道局、教育委員会がそれぞれ特定事業者となっています。

- ・市役所（本庁舎、行政センター庁舎、コミュニティセンター等各公共施設）
- ・上下水道局（水道局庁舎、浄水場、ポンプ場等）
- ・教育委員会（学校、給食センター、科学館等）

2 「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅣ」取組結果

【評価の判断基準】

- ◎：目標値に達した。
- ：目標値に達していないが、基準年度値より改善した。
- △：基準年度値より良いが、前年度を下回った。
- ×：基準年度値を下回った。

(1) 市の事務及び事業から発生する二酸化炭素（CO₂）排出量の削減

	目標設定項目（単位）	基準年度値 (2013 年度)	実績値 (2023 年度)	実績値 (2024 年度)	最終目標値 (2030年度)	2024 評価
1	CO ₂ 排出量（t-CO ₂ ）	53,824	17,694	16,620	18,838	◎
2	削減率	—	▲67%	▲69%	▲65%	

※CO₂排出量は各エネルギー使用量にエネルギー毎に定められている係数を乗じて求めています。

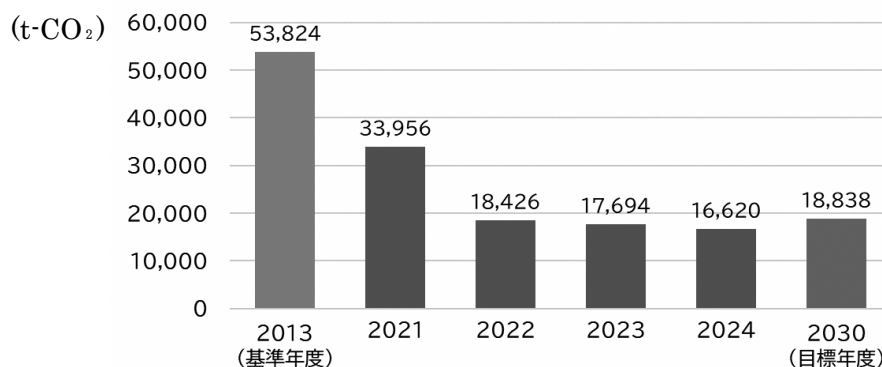
- ・2024年度のCO₂排出量は、基準年度(2013年度)から▲69%の16,620t-CO₂となり、2023年度に続いて目標を達成しました。
- ・計画に基づいた取組を継続的に実行したことに加えて、2021年12月から高压受電施設の電力調達先をCO₂排出係数(※)の低い「いずも縁結び電力」に切り替えたことが大きな要因です。

※CO₂排出係数…電気事業者が電力を発電するために排出するCO₂を押し量る指標

中国電力 0.520t-CO₂/千kWh

いずも縁結び電力 0.102t-CO₂/千kWh (いずれも2023年度値)

《市の事務及び事業から発生するCO₂排出量の推移》



(2) エネルギー等の使用状況

① エネルギー

	目標設定項目 (単位)	基準年度値 (2013年度)	実績値 (2023年度)	実績値 (2024年度)	最終目標値 (2030年度)	2024 評価
1	電 気 (千 kWh)	56,440	51,722	52,165	47,974	△
2	灯 油 (kℓ)	3,551	1,263	1,251	1,243	○
3	A 重 油 (kℓ)	390	123	118	117	○
4	L P G (t)	284	244	256	227	△
5	都 市 ガ ス (千 m3)	100	119	133	95	×
6	ガ ソ リ ン (kℓ)	269	204	206	215	◎
7	軽 油 (kℓ)	215	196	194	194	◎

※全ての市有施設を対象範囲としています。

- ・都市ガスを除く各種類で2023年度と同程度となりました。
- ・ガソリン及び軽油は最終目標値を達成し、A重油についてもほぼ達成する結果となりました。
- ・電気については、展示施設・学校での夏季の冷房使用の増加による使用量増があった一方で、工事に伴う一時休館による使用量減などがあり、全体としては2023年度と同程度となりました。
- ・都市ガスは、使用する施設数が少なく、エネルギー全体の中での割合も小さいですが、使用量が増加しており、基準年度比・2023年度比ともに増加しました。

② その他項目

	目標設定項目（単位）		基準年度値 （2021年度） ※水（2019年度）	実績値 （2023年度）	実績値 （2024年度）	最終目標値 （2030年度）	2024 評価
1	ごみ排出量	（kg）	25,273	23,519	22,230	22,746	◎
2	コピー用紙使用量	（kg）	77,591	59,833	51,839	38,796	○
3	封筒使用量	（枚）	648,157	586,287	718,914	583,341	×
4	水使用量	（m3）	177,453	141,083	146,772	159,708	◎

※市職員が配置されている施設及び小中学校を対象範囲としています。

- ・2023年度比では、ごみ排出量及びコピー用紙使用量が減となり、封筒使用量及び水使用量が増となりました。
- ・基準年度比では、封筒使用量以外は減となりました。
- ・ごみについては減少傾向にあり、最終目標値を達成しました。
- ・コピー用紙はペーパーレス化の浸透もあり、コピーカウント数の削減とともに減少しています。
- ・封筒については、各種アンケートや手続き等の発送用封筒の購入が増えたことなどにより、基準年度を上回る使用量となりました。
- ・水については、2023年度より増加しましたが、基準年度比削減目標を達成しています。

③ 主な取組

	取組内容
1	夏季の省エネルギーとして冷房設備の適切な使用とブラインドの活用等による室温調整（28℃目安）の徹底を図った。
2	クールビズ（5月1日～10月31日）や冬季のウォームビズ、気温・室温に合わせた「働きやすい服装勤務」を実施した。
3	業務（会議）のペーパーレス化を各職場共通の取組項目に設定し、日常業務における文書の電子化や庁内LANを活用した周知及び照会の徹底を図った。
4	オフィスでのごみ排出量削減や資源リサイクル、脱炭素化を進めるため、3R（Reduce、Reuse、Recycle）や紙類リサイクルの徹底を図った。
5	各職場に環境活動推進員を選任し、各職場での研修・教育やエコオフィス行動の推進を図った。
6	各課で、不要な照明の消灯やエレベーター利用の自粛などの独自取組項目（2項目以上）を設定し、職場の状況に応じたエコオフィス活動を推進した。
7	内部監査を18の職場で実施し、各課における取組状況の確認や評価を行うとともに、各課で行われている効果的な取組を職員へ周知した。

(3) 市職員のエコ通勤の取組

① 数値目標の達成状況

	目標設定項目（単位）	基準年度値 （2021 年度）	実績値 （2023 年度）	実績値 （2024 年度）	最終目標値 （2030 年度）	2024 評価
1	エコ通勤による CO ₂ 削減量（kg-CO ₂ ）	134, 600	161, 270	154, 244	200, 000	△

※CO₂削減量は、ガソリン車で通勤した場合と比較して削減できた量。

往復通勤距離÷燃費（10km/L）×エコ通勤日数×CO₂排出係数（2.32）により算定する。

- ・エコ通勤（公共交通機関や自転車、徒歩など環境にやさしい交通手段による通勤）によるCO₂削減量は毎年増加してきましたが、2024 年度は 2023 年度をやや下回る結果となり、CO₂削減目標達成率は 77.1%でした。
- ・主な要因として、エコ通勤の延べ実施日数は 2023 年度より増加しましたが、一方で総通勤距離が短くなったことにより、結果としてCO₂削減量は 2023 年度より減少しました。

② 主な取組

	取組内容
1	職員の率先行動として、毎月第3水曜日を含む週を「エコ通勤ウィーク」としており、徒歩や自転車、公共交通機関利用等によるエコ通勤を呼びかけた。
2	「エコ通勤ウィーク」期間中には、本庁舎玄関へのぼりを掲示して職員への周知及び来庁者へのPRを行った。
3	若手職員政策研究プロジェクトチームが職員向けに、ライフスタイルに合わせたエコ通勤方法の提案を広報した。

「環境総合計画」数値目標の達成状況一覧

No.	施策の柱	目標設定項目	現状値 (基準年度)	実績値		短期目標値 (2030年度)	評価	
				2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
1	1-1 温暖化	省エネルギー機器導入などの対策を実施している事業者の割合 【増加目標】	17% (2022年度)	—	—	40%	—	—
2		新築・改築時におけるZEBの導入割合 【増加目標】	0.42% (2020年度)	0.7% (2022年度)	1.3% (2023年度)	15%	○	○
3		新築・改築時におけるZEHの導入割合 【増加目標】	16% (2020年度)	17.4% (2022年度)	22.6% (2023年度)	31%	○	○
4		デコ活(COOL CHOICE)の実施割合(家庭) 【増加目標】	66.3% (2022年度)	—	—	80%	—	—
5		デコ活(COOL CHOICE)の実施割合(事業者) 【増加目標】	51.0% (2022年度)	—	—	70%	—	—
6		いずも縁結び電力(株)エネルギーの 地産地消率 【増加目標】	60% (2021年7月) ※設立時目標	72%	73%	73%	△	◎
7		いずも縁結び電力(株)排出係数 【削減目標】	0.281 kg-CO ₂ /kwh (2021年度)	0.286 kg-CO ₂ /kwh (2022年度)	0.102 kg-CO ₂ /kwh (2023年度)	0.095 kg-CO ₂ /kwh	×	○
8		新車販売台数における次世代自動車の販売台数の割合 【増加目標】	39.2% (2019年度)	49.0% (2022年度)	54.0% (2023年度)	70%	○	○
9		CO ₂ 吸収量(森林吸収量) 【増加目標】	156 千t-CO ₂ (2021年度)	152.9 千t-CO ₂	155.1 千t-CO ₂	156 千t-CO ₂	×	×
10		森林整備面積 【増加目標】	149ha (2021年度)	66.1ha	48.1ha	200ha	×	×
11		間伐等実施面積 【増加目標】	116ha (2021年度)	45.5ha	25.5ha	160ha	×	×
12		市産材取扱量 【増加目標】	12,729m ³ (2021年度)	14,279m ³	10,907m³	15,500m ³	○	×
13		新規林業就業者数(累計) 【増加目標】	2人 (2021年度)	7人	17人	29人	○	○
No.	施策の柱	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値		中間目標値 (2026年度)	評価	
				2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
14	2-1 3R	ごみ排出量 (一人一日当たりごみ排出量) 【削減目標】	58,209t (915g/人・日)	57,351t (909g/人・日)	57,086t (907g/人・日) ※暫定値	56,751t (901g/人・日)	○	○
15		ごみ最終処分量 (最終処分量) 【削減目標】	9,243t (15.9%)	8,817t (15.4%)	9,218t (16.1%) ※暫定値	8,942t (15.8%)	◎	△
16	3-1 森里 川海	里山林・森林保全活動団体数 【増加目標】	8団体	11団体	10団体	10団体	◎	◎
17		有害鳥獣の農林産物に係る被害額 【削減目標】	4,500千円	3,700千円	1,691千円	3,100千円	△	◎
18		環境保全型農業直接支払交付金取組面積 【増加目標】	250ha	276ha	311ha	300ha	△	◎
19		学校給食における地元産食材の使用割合(金額ベース) 【増加目標】	72.7%	69.2%	72.5%	77%	×	×
20		市内河川水質の環境基準等達成率(BOD) 【増加目標】	100%	97%	97.0%	100%	×	×

「環境総合計画」数値目標の達成状況一覧

No.	施策の柱	目標設定項目	基準年度値 (2021年度)	実績値		中間目標値 (2026年度)	評価	
				2023年度	2024年度		2023年度	2024年度
21	3-1 森里 川海	6 矢道湖のCOD75%値(環境基準 3.0mg/ℓ) 【削減目標】	5.5mg/ℓ	5.7mg/ℓ	5.6mg/ℓ	4.6mg/ℓ	×	×
22		7 神西湖のCOD75%値(環境基準 5.0mg/ℓ) 【削減目標】	6.0mg/ℓ	7.3mg/ℓ	6.8mg/ℓ	5.6mg/ℓ	×	×
23		8 汚水処理人口普及率 【増加目標】	89.5%	90.2%	90.7%	93.3%	○	○
24		9 水洗化率(接続率) 【増加目標】	91.5%	91.9%	92.2%	92.5%	○	○
25		10 海岸等一斉清掃参加者数 【増加目標】	9,204人	9,821人	8,120人	12,000人	○	×
26	3-2 生物 多様性	1 ホタルの生息が確認された地区の割 合(生息地区数) 【増加目標】	70% (30地区)	65% (28地区)	77% (33地区)	80% (35地区)	×	○
27		2 市主催の自然体験事業の参加者数 【増加目標】	6,661人	10,627人	11,557人	14,000人	○	○
28		3 グリーンツーリズムの受入団体数 【増加目標】	6団体	6団体	4団体	8団体	△	×
29	4-1 健康	1 大気汚染測定値(SPM) (環境基準:0.10mg/m³以下) 【削減目標】	0.012mg/m³ (2020年度)	0.014mg/m³ (2022年度)	0.014mg/m³ (2023年度)	0.10mg/m³ 以下	◎	◎
30		2 自動車騒音の環境基準達成率 【増加目標】	100%	100%	100%	100%	◎	◎
31	4-2 快適	1 市全体の市民美化活動参加者数 【増加目標】	30,815人	29,133人	29,350人	35,000人	×	×
32		2 美化サポートクラブ登録団体数 【増加目標】	39団体	38団体	38団体	50団体	×	×
33	5-1 学習・ 保全活動	1 環境学習施設の利用者数 【増加目標】	46,299人	57,597人	58,526人	53,000人	◎	◎
34		2 省エネ講師、ごみ減量化アドバイザー 等の派遣回数 【増加目標】	54回	26回	10回	70回	×	×
35	5-2 情報	1 環境総合ウェブサイト「出雲エコなび」 の閲覧件数 【増加目標】	152,715件	165,876件	—	200,000件	○	—

◆目標設定項目のうち、出雲市環境基本計画に該当するもの(No.14～35)については当該計画に定める2026年度の中間目標値に対する評価とし、出雲市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】に該当するもの(No.1～13)については当該計画に定める2030年度の短期目標値に対する評価としています。

◆評価対象外の項目のうち、No.1、No.4、No.5については2026年度の中間見直しの際にアンケート実施により把握する予定としているものです。また、No.35「出雲エコなび」閲覧件数については、ホームページのリニューアル後、閲覧件数のカウント方法が従前と異なったため、目標値との比較ができなくなったものであり、今後目標設定について検討します。

＜評価基準＞

	2023年度 項目数	2024年度 項目数
◎:目標値に達した	5	7
○:目標値に達していないが、基準年度値より改善した	11	10
△:基準年度値より良いが、前年度値を下回った。または基準年度値と変わらなかった	4	1
×:基準年度値を下回った	12	13
—:評価対象外	3	4



出雲市環境レポート

発行日：令和7年12月

編集・発行：出雲市環境エネルギー部環境政策課
〒693-8530 出雲市今市町70番地

TEL：0853-21-2211（代表）

メールアドレス：kankyou-seisaku@city.izumo.shimane.jp



植物油インクを使用しています。